

(1)環瀬戸内海地域における交流状況について

全国共通料金の導入

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure, Transport and Tourism

Press Release

平成26年 3月14日

国土交通省道路局

新たな高速道路料金について

4月以降の高速道路の料金については、国土幹線道路部会の中間答申などを踏まえ、様々な観点から検討を進め、昨年12月に「新たな高速道路料金に関する基本方針」を発表したところです。

その後、高速道路会社において、基本方針やパブリックコメントを踏まえ、詳細の検討を進めておりましたが、本日付けで、会社に対して事業許可を行いました。

今回の事業許可では、高速道路の料金水準について、普通区間、大都市近郊区間、海峡部等特別区間の3つの料金水準へ統一しましたが、これに伴う料金水準の引き下げは、当面10年間実施することとします。なお、この事業許可に先立ち、本四高速を全国路線網へ編入しています。

更に、消費税については、「高速道路料金における消費税の転嫁の方法に関する基本的な考え方」（平成26年1月22日）を踏まえ、消費税率が8%となるよう、料金を円滑かつ適正に転嫁することとしました。

これにより、4月以降の新たな高速道路料金が決定いたしましたので、お知らせいたします。

問い合わせ先：国土交通省 代表 TEL 03-5253-8111

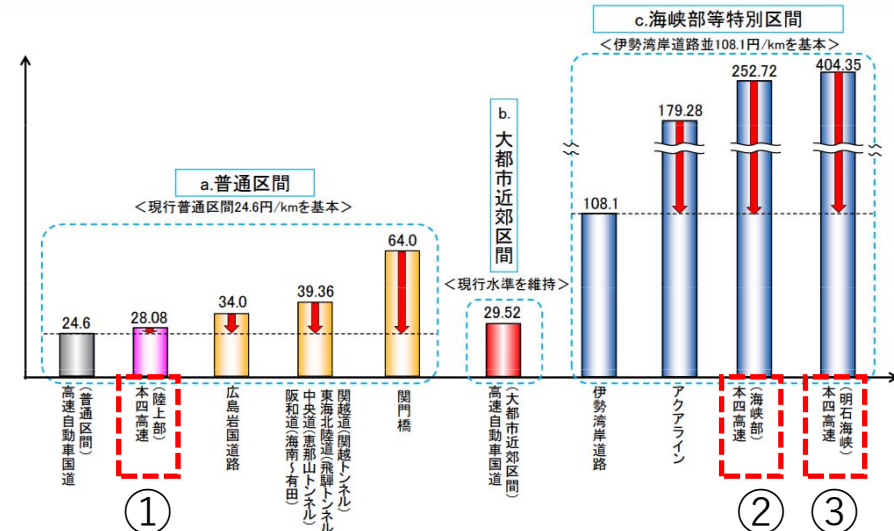
道路局高速道路課 直通 TEL 03-5253-8500、FAX 03-5253-1619

【全国共通料金の導入（ETC車）】

・当面10年間実施

- ①陸上部：28.08円/km→**24.6円/km**
- ②海峡部：252.72円/km→**108.1円/km**
- ③海峡部（明石海峡大橋）：
404.35円/km→**108.1円/km**

3つの料金水準の導入 ～「整備重視の料金」から「利用重視の料金」への転換～



※料金水準引き下げの対象はETC利用車に限定し、期間は当面10年間とする

注：料金水準については、普通車の場合

事業認可における普通車通行料金(H26.4～)

●神戸淡路鳴門自動車道

(単位:円)

区 間	料金 (H26.4～R6.3)				R6.4～
	現金車 ※1	ETC車 (平日)	ETC車 (平日朝夕) ※2	ETC車 (休日) ※3	全車 ※4
神戸西～鳴門 (全線)	5,610	3,280	2,810	2,620	5,610
垂水～淡路 (明石海峡大橋)	2,370	900	900	900	2,370

※1 ETC車以外

※2 平日朝夕割引は、月毎の利用回数に応じて無料走行分を事後還元するもの
(表中の金額は、最大割引率を適用した場合の還元額を控除した額)

※3 休日割引適用後の料金

※4 ETC車は、ETCマイレージ割引等有り(消費税8%)

●瀬戸中央自動車道

(単位:円)

区 間	新料金 (H26.4～R6.3)				R6.4～
	現金車 ※1	ETC車 (平日)	ETC車 (平日朝夕) ※2	ETC車 (休日) ※3	全車 ※4
早島～坂出 (全線)	4,220	2,270	2,110	1,950	4,220

●西瀬戸自動車道(瀬戸内しまなみ海道)

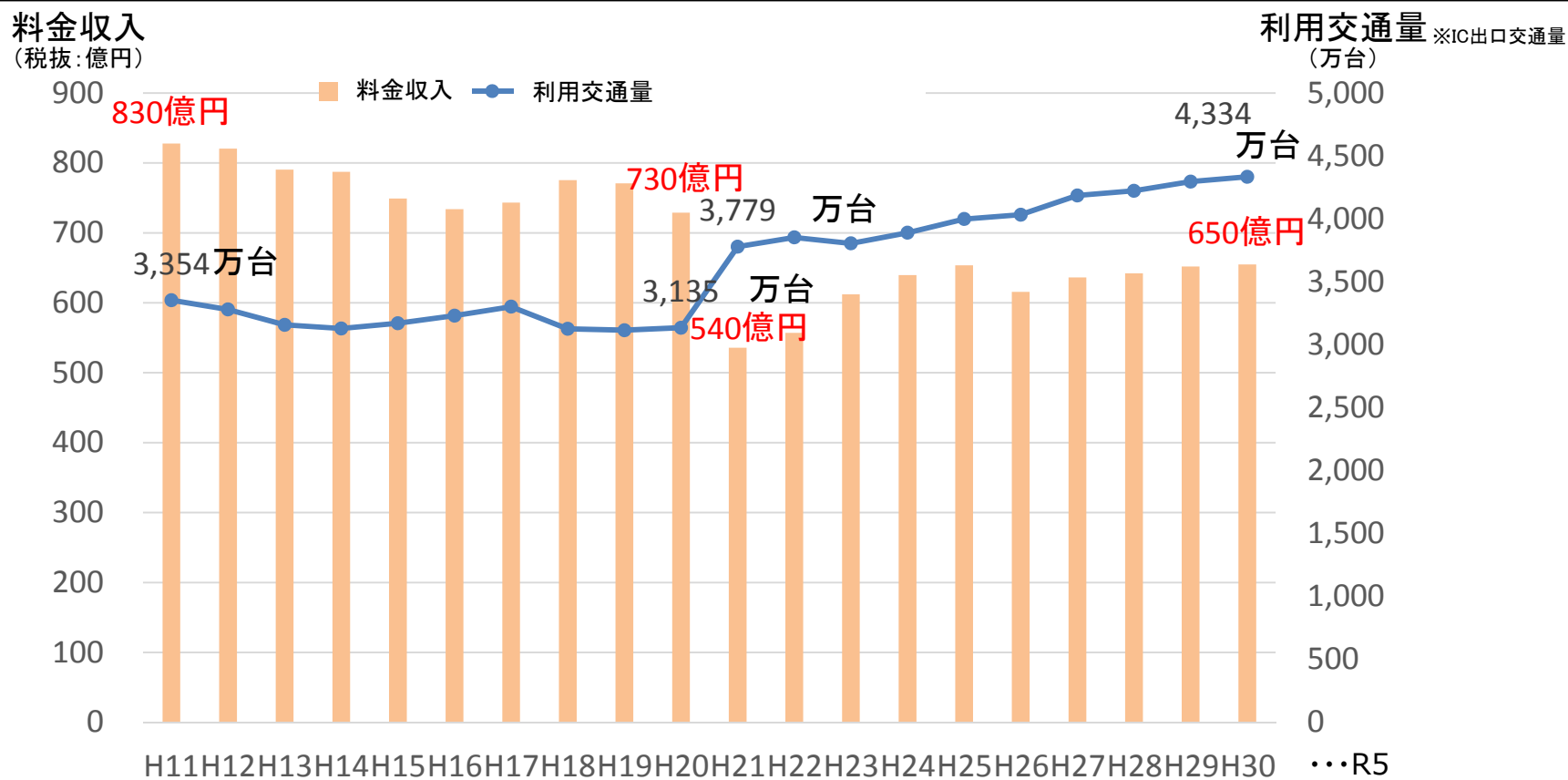
(単位:円)

区 間	新料金 (H26.4～R6.3)				R6.4～
	現金車 ※1	ETC車 (平日)	ETC車 (平日朝夕) ※2	ETC車 (休日) ※3	全車 ※4
西瀬戸尾道～今治 (全線)	4,830	2,890	2,420	2,260	4,830



本四高速の収入及び交通量の推移

- 交通量は利便増進計画による割引（休日上限1,000円等）によりH21より大幅に増加。H26.4以降の全国共通料金適用後も増加。
- 交通量は大幅に増加しているが、料金収入は平成11年度の830億円をピークに減少しており、平成30年度は2割減の約655億円。



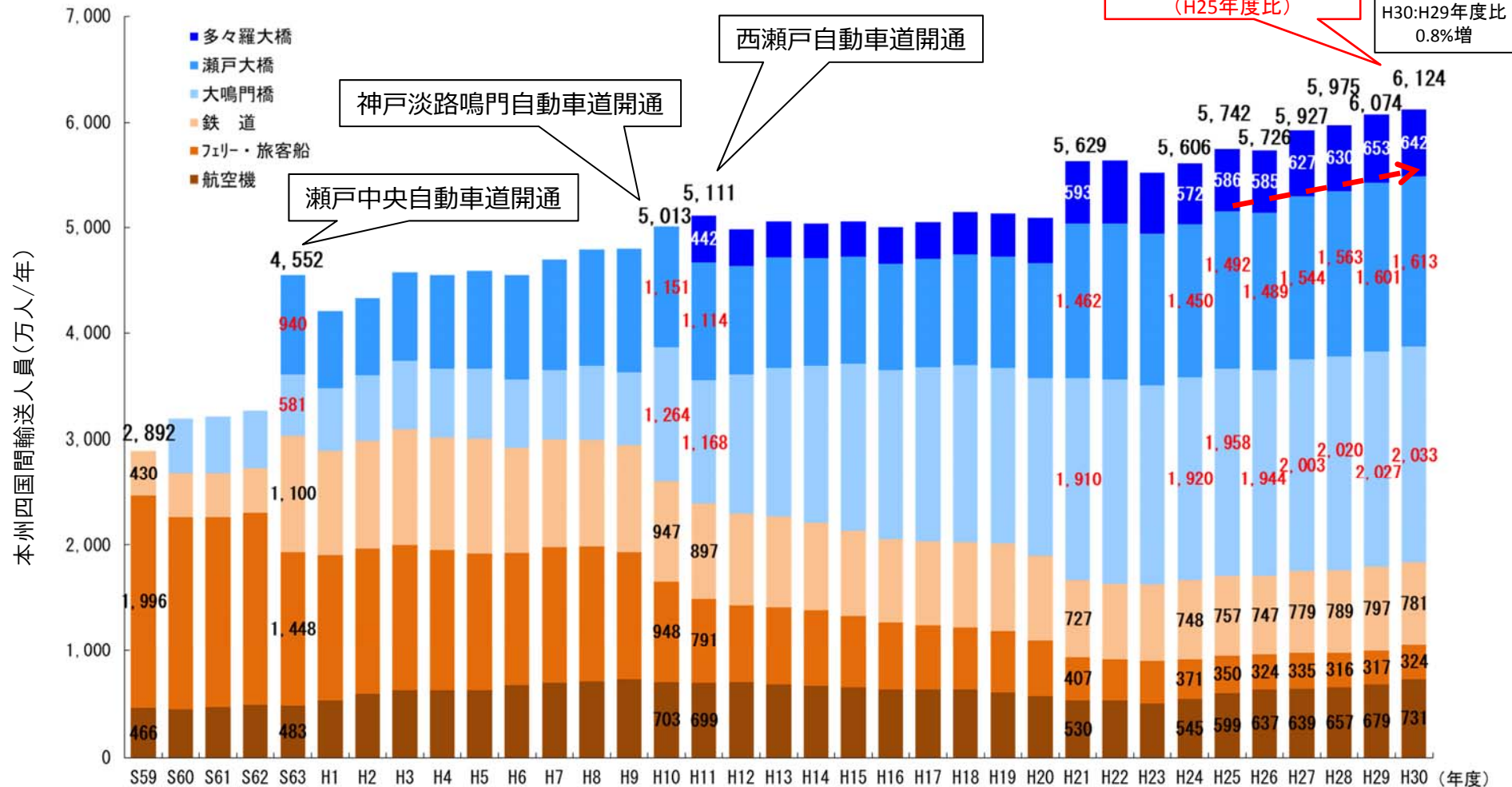
【代表事例】

神戸淡路 鳴門道全線 普通車料金	平日 ETC	H10.4～H15.7	H15.7～H21.3	H21.3～H26.3	H26.4～R1.9	R1.10～R6.3
	休日 ETC	6,050円	5,150円	2,725円、3,815円※ ※時間帯により割引率が異なる	3,280円	3,340円
		6,050円	5,150円	1,000円～2,750円	2,620円	2,670円

本州四国間の交流(人の交流)

○H30年度の交流人口は6,124万人／年であり、H29年度に対して50万人（約0.8％）増加。
○H25年度（協議会目標の基準年）に対して382万人（約6.7％）増加。

◆交通機関別の本州四国間輸送人員の推移



出典) 本州四国連絡高速道路(株)資料、四国運輸局「業務要覧」より作成

注1: 瀬戸大橋開通(1988年4月)以前の鉄道の輸送人員は、宇高連絡船の利用客
開通後は、JR瀬戸大橋線の輸送人員

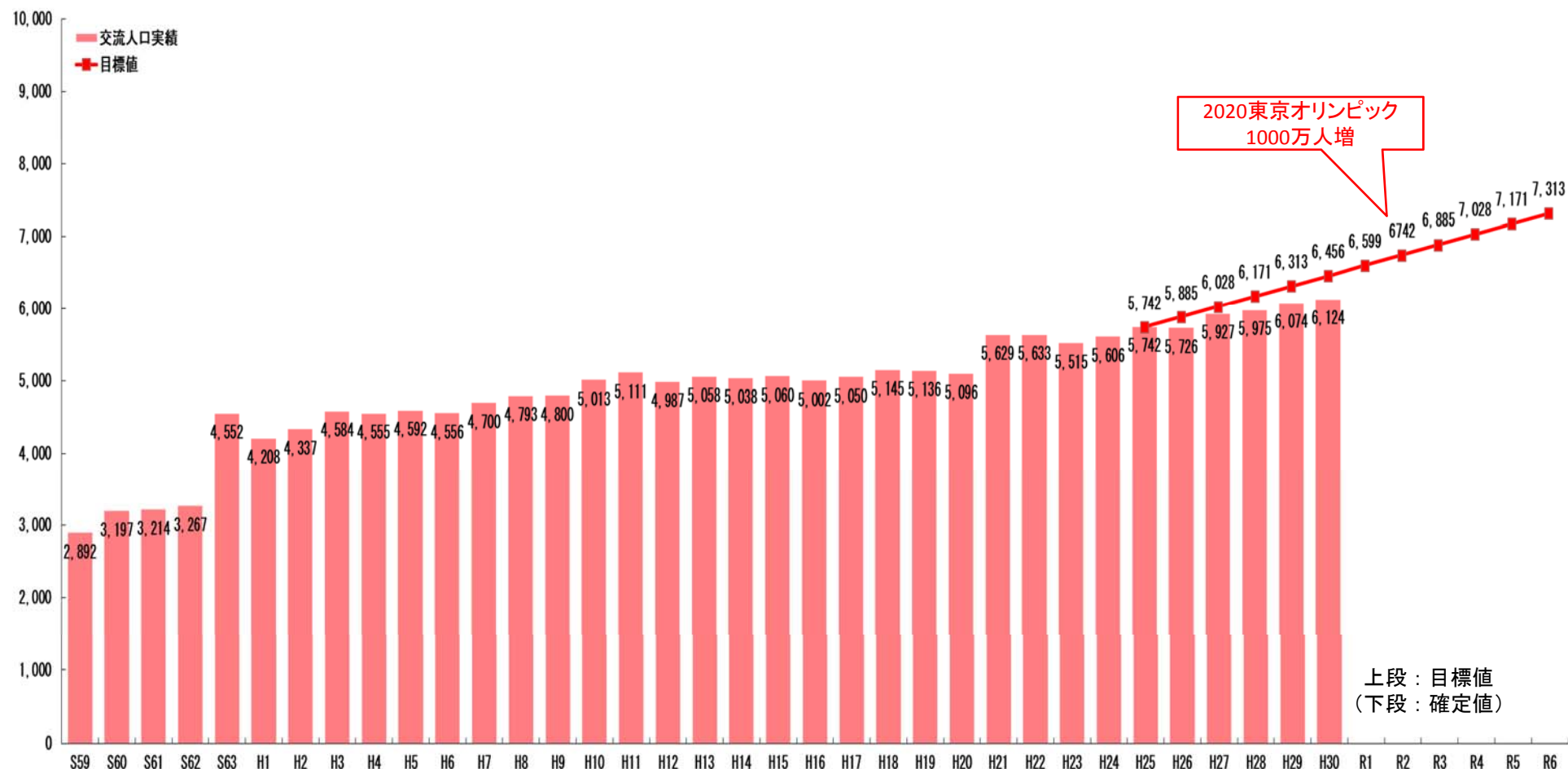
注2: 瀬戸大橋、大鳴門橋、多々羅大橋はそれぞれ県境に架かる橋

本州四国間交流人口の達成状況

○環瀬戸内海地域交流促進協議会で設定した目標の達成状況は、平成30年度では332万人実績が少なく開きが見えてきている。

○さらに取組を強化・拡大し、2020年（東京オリンピック開催）までに1000万人増を目指す。

◆交通機関別の本州四国間輸送人員（推計値）の推移



出典）本州四国連絡高速道路(株)資料、四国運輸局「業務要覧」より作成

注1：瀬戸大橋開通（1988年4月）以前の鉄道の輸送人員は、宇高連絡船の利用客
開通後は、JR瀬戸大橋線の輸送人員

注2：瀬戸大橋、大鳴門橋、多々羅大橋はそれぞれ県境に架かる橋

本州四国間交流人口の達成状況(県境断面の達成状況)

○本州四国間の交流人口は目標に対し、やや低めで推移しているが、年々増加傾向。

		H25	H26	H27	H28	H29	H30	R2
交流人口(万人/年)		()内の伸率は、対H25(基準年)比						
合 計	上段：目標		5,885(+2.5%)	6,028(+5.0%)	6,171(+7.5%)	6,313(+9.9%)	6,456(+12.4%)	
	下段：実績	5,742 →	5,726(-0.3%)	5,927(+3.2%)	5,975(+4.1%)	6,074(+5.8%)	6,124(+6.7%)	→ 6,742(+17.4%) 2020年(H32)に交流人口 100万人増加を目標
兵庫－徳島 (神戸・鳴門ルート)	上段：目標	1,958 →	2,007(+2.5%)	2,056(+5.0%)	2,104(+7.5%)	2,153(+10.0%)	2,202(+12.5%)	→ 2,299(+17.4%)
	下段：実績		1,944(-0.7%)	2,003(+2.3%)	2,020(+3.2%)	2,027(+3.5%)	2,033(+3.8%)	
岡山－香川 (児島・坂出ルート)	上段：目標	1,492 →	1,529(+2.5%)	1,566(+5.0%)	1,603(+7.5%)	1,640(+9.9%)	1,678(+12.5%)	→ 1,752(+17.4%)
	下段：実績		1,489(-0.2%)	1,544(+3.5%)	1,563(+4.8%)	1,601(+7.3%)	1,613(+8.1%)	
広島－愛媛 (尾道・今治ルート)	上段：目標	586 →	601(+2.5%)	615(+5.0%)	630(+7.5%)	644(+9.9%)	659(+12.5%)	→ 688(+17.4%)
	下段：実績		585(-0.2%)	627(+7.0%)	630(+7.5%)	653(+11.4%)	642(+9.6%)	
その他※	上段：目標	1,706 →	1,749(+2.5%)	1,791(+5.0%)	1,834(+7.5%)	1,876(+10.0%)	1,918(+12.4%)	→ 2,003(+17.4%)
	下段：実績		1,708(+0.1%)	1,753(+2.8%)	1,762(+3.3%)	1,793(+5.1%)	1,836(+7.6%)	
【参考】観光入込客(万人回/年)		()内の伸率は、対H25(基準年)比						
兵庫県		7,034 →	7,399(+5.2%)	7,224(+2.7%)	7,127(+1.3%)	→ 集計中	→ 集計中	
岡山県		1,232 →	1,422(+15.4%)	1,449(+17.6%)	1,740(+41.2%)	→ 1,569(+27.4%)	→ 1,438(+16.7%)	
広島県		2,344 →	2,405(+2.6%)	2,310(-1.5%)	2,109(-10.0%)	→ 2,305(-1.7%)	→ 2,358(0.6%)	
徳島県		1,044 →	1,137(+8.8%)	1,010(-3.3%)	1,078(+3.2%)	→ 1,111(+6.4%)	→ 集計中	
香川県		1,539 →	1,712(+11.3%)	1,674(+8.8%)	1,593(+3.5%)	→ 1,485(-3.5%)	→ 集計中	
愛媛県		1,311 →	1,461(+11.4%)	1,497(+14.1%)	1,503(+14.6%)	→ 1,479(+12.8%)	→ 集計中	
高知県		590 →	570(-3.4%)	662(+12.2%)	663(+12.3%)	→ 集計中	→ 集計中	

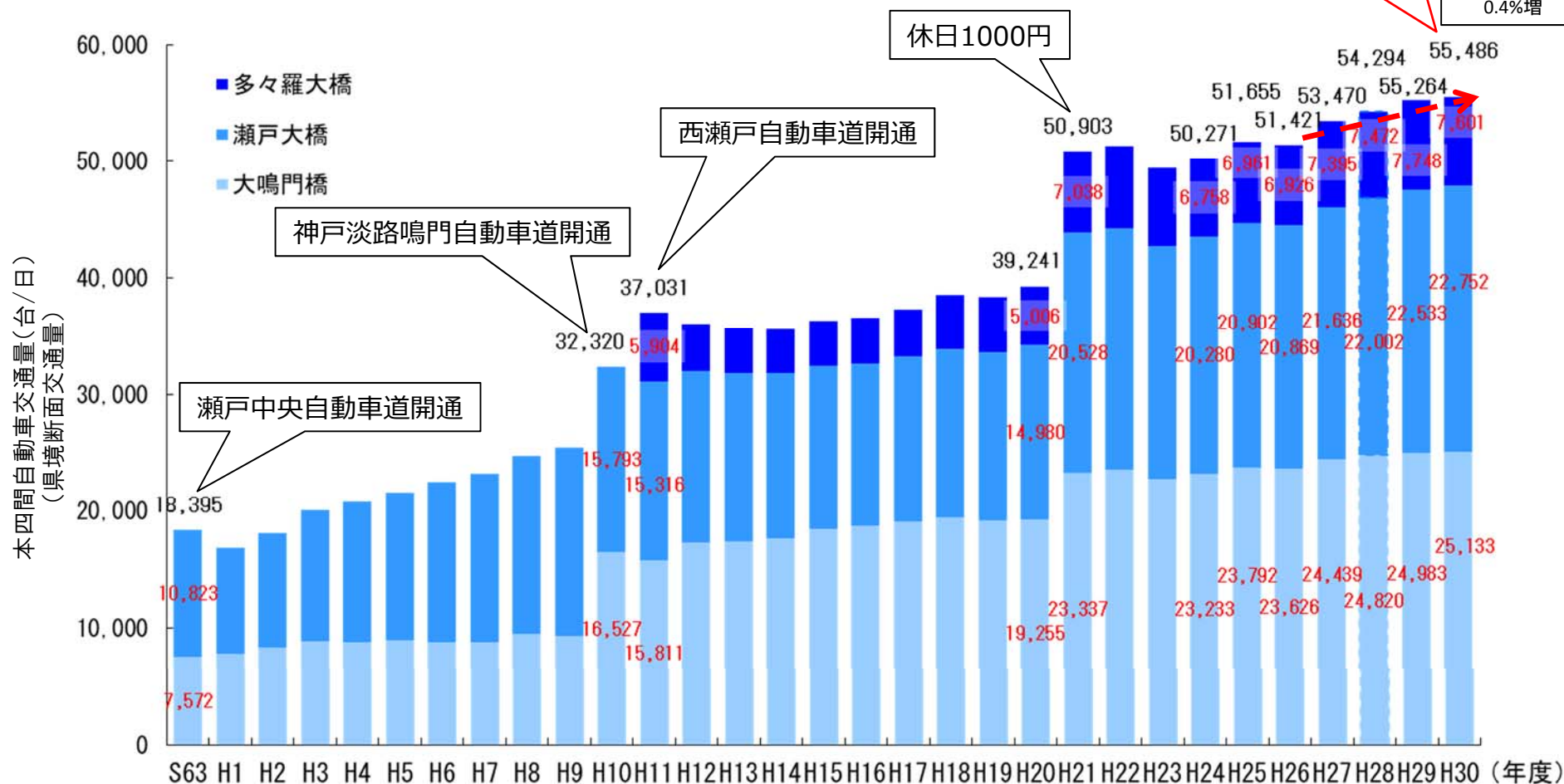
出典) 本州四国連絡高速道路(株)資料、四国運輸局「業務要覧」より作成
観光庁「共通基準による観光入込客統計」

※鉄道、旅客船、フェリー、航空機による交流人口

交通量の状況（本四間自動車交通量(県境断面交通量)）

- H30年度の本四間自動車交通量(3橋)は55,486台/日であり、H29年度に対して222台/日（約0.4%）増加。
- 橋梁別では多々羅大橋が147台/日減少、瀬戸大橋が219台/日増加、大鳴門橋は150台/日増加。
- H25年度（協議会目標の基準年）に対して3,831台/日（約7.4%）増加。

◆本州四国間の自動車交通量の推移



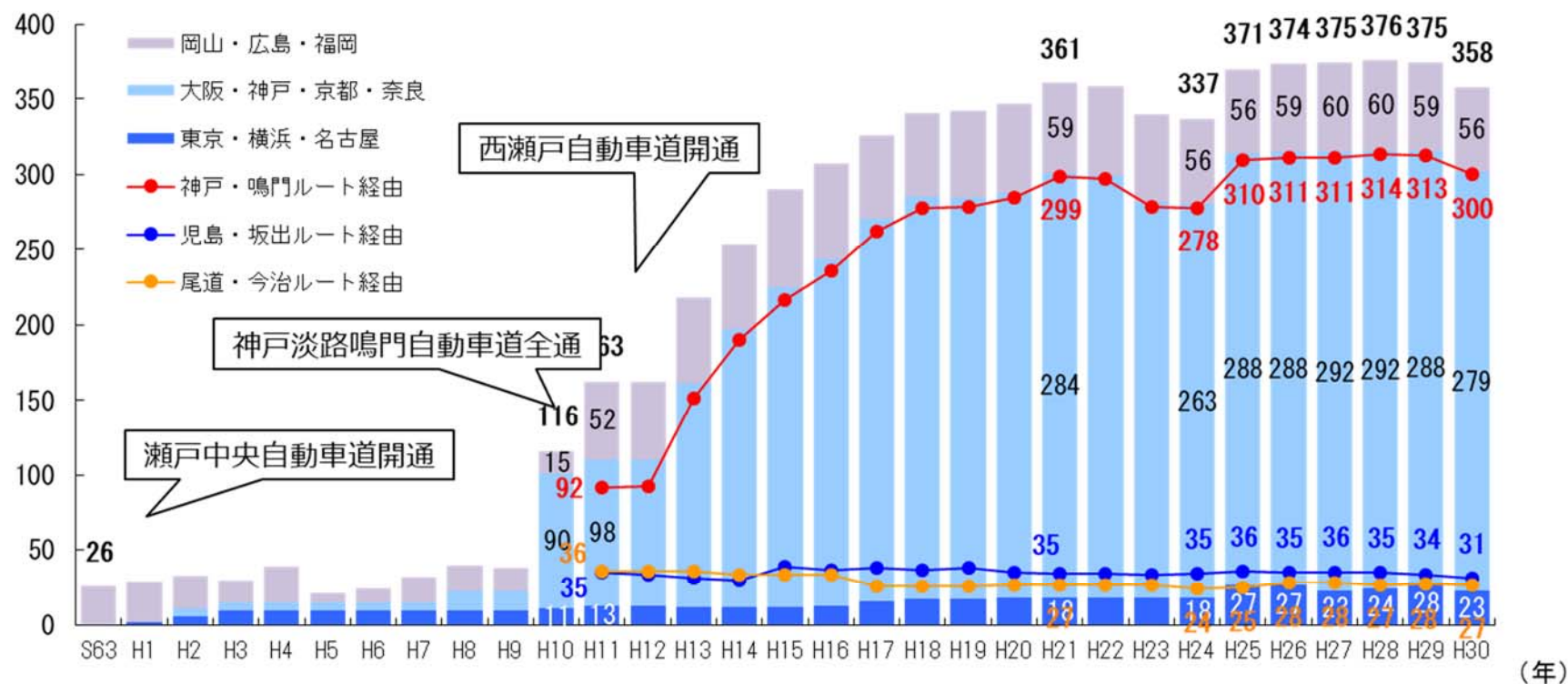
出典) 本州四国連絡高速道路(株)

本四間交通量の状況(高速バス)

- 神戸淡路鳴門自動車道開通後のH10年以降、神戸・鳴門ルートを中心に大幅に増加。
- H30年の本四間高速バス便数は358便/日であり、H29年に対して17便/日減少。

◆本州四国間高速バス便数の推移

(往復便数/日)



出典)「四国運輸局要覧」(四国運輸局)ほか

平成31年4月以降の交通量の変化（県境3橋合計）

○本四3橋の令和元年度の各月の平均断面交通量は前年度に対し、各月とも増加しており、4月～9月の期間では前年同期比5.2%増加している。

【3橋合計の日平均交通量の変化

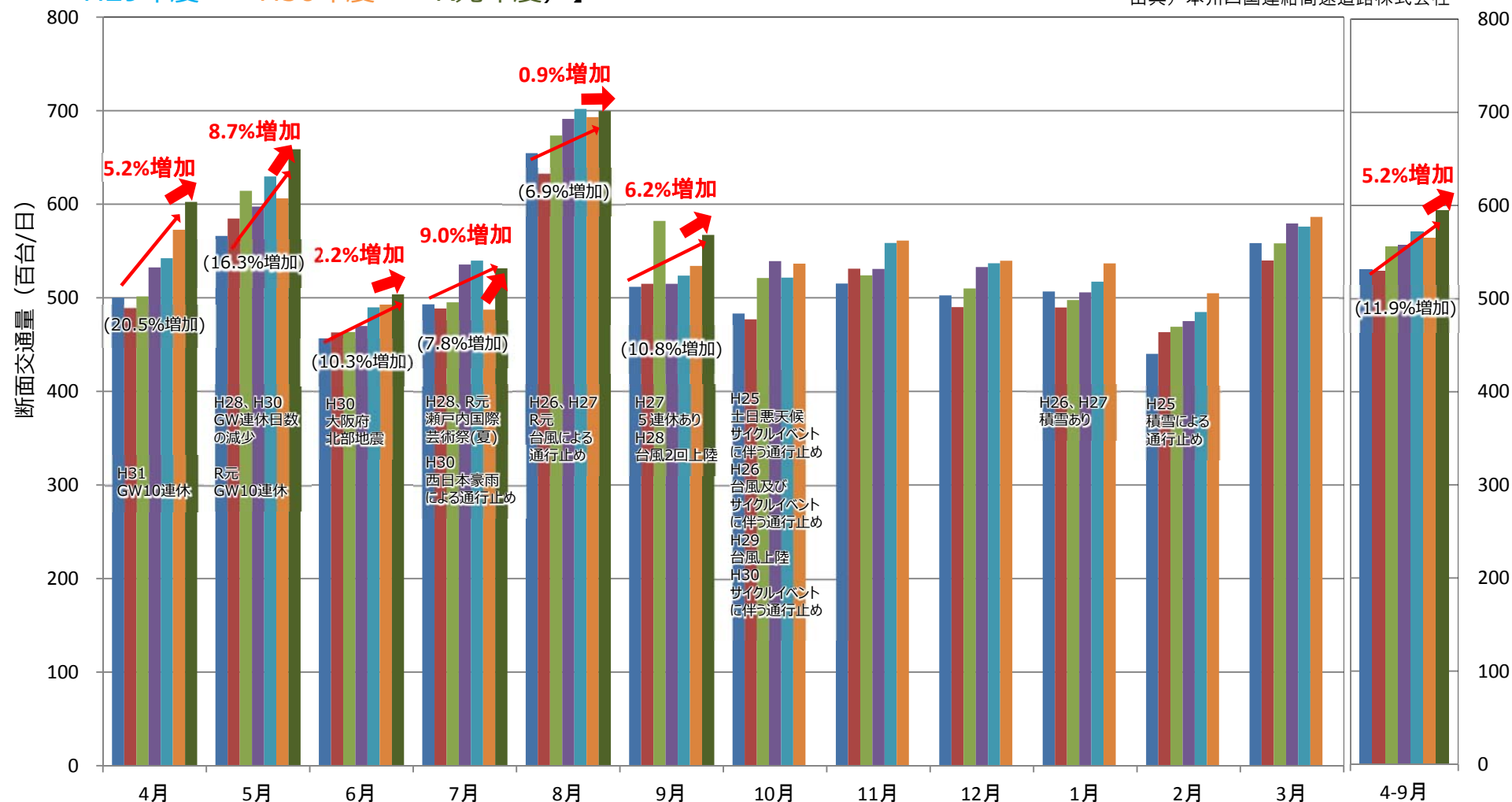
（■H25年度⇒■H26年度⇒■H27年度⇒■H28年度⇒
■H29年度⇒■H30年度⇒■R元年度）】

※増減率は、R元年度/H30年度

（ ）はR元年度/H25年度

グラフの交通量は100台単位で表示しているため、増減率の数値と合わない可能性がある

出典）本州四国連絡高速道路株式会社



平成31年4月以降の交通量の変化（大鳴門橋）

○神戸淡路鳴門自動車道（大鳴門橋）の令和元年度の各月の平均断面交通量は前年度に対し、各月とも増加しており、4月～9月の期間では前年同期比6.0%増加している。

【大鳴門橋断面の日平均交通量の変化

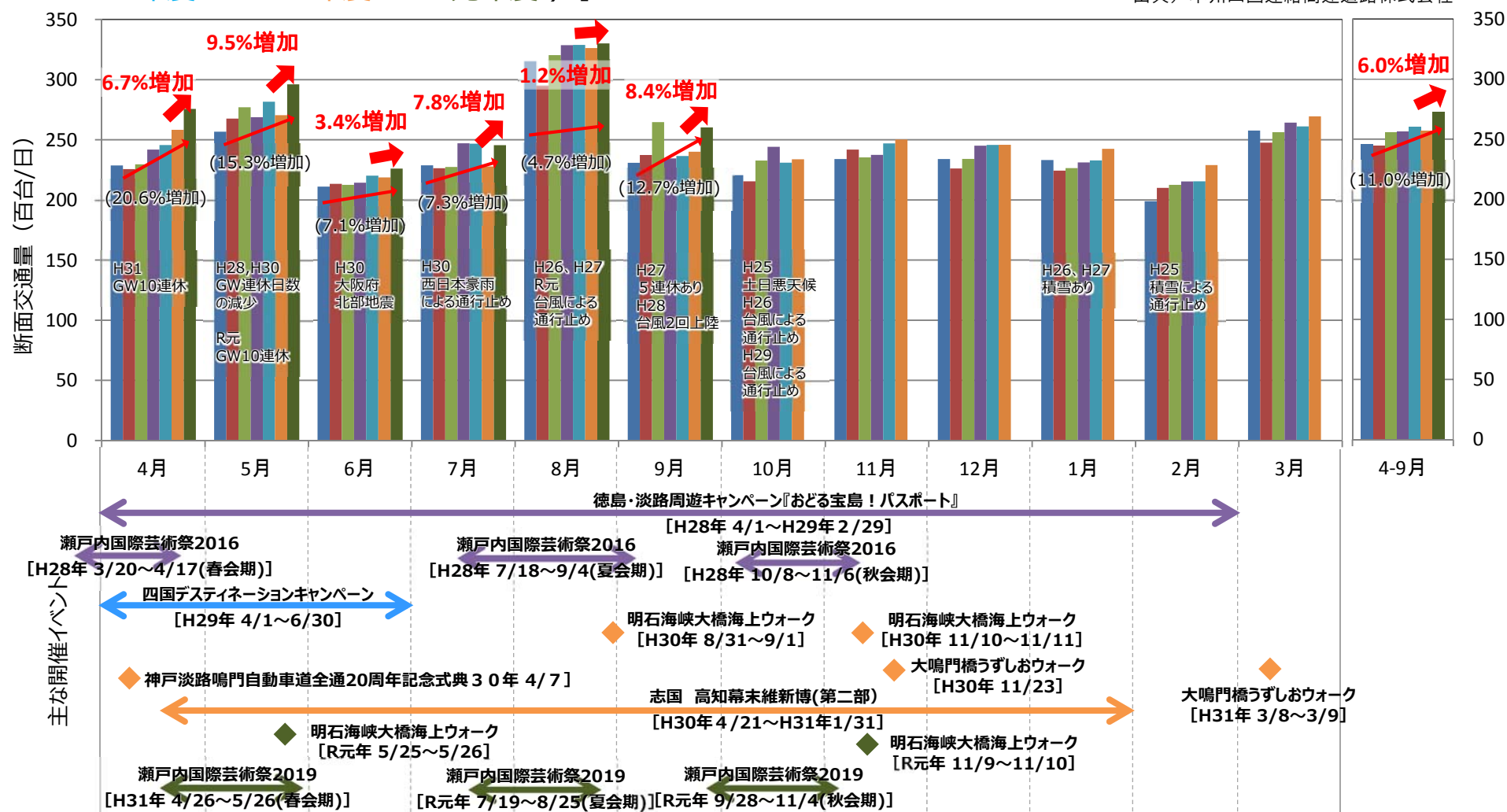
（ ■ H25年度 ⇒ ■ H26年度 ⇒ ■ H27年度 ⇒ ■ H28年度 ⇒
■ H29年度 ⇒ ■ H30年度 ⇒ ■ R元年度 ）】

※増減率は、R元年度/H30年度

（ ）はR元年度/H25年度

グラフの交通量は100台単位で表示しているため、増減率の数値と合わない可能性がある

出典）本州四国連絡高速道路株式会社



平成31年4月以降の交通量の変化（瀬戸大橋）

○瀬戸中央自動車道（瀬戸大橋）の令和元年度の各月の平均断面交通量は前年度に対し、8月は減少しているが、その他の月は増加しており、4月～9月の期間では前年同期比3.5%増加している。

【瀬戸大橋断面の日平均交通量の変化

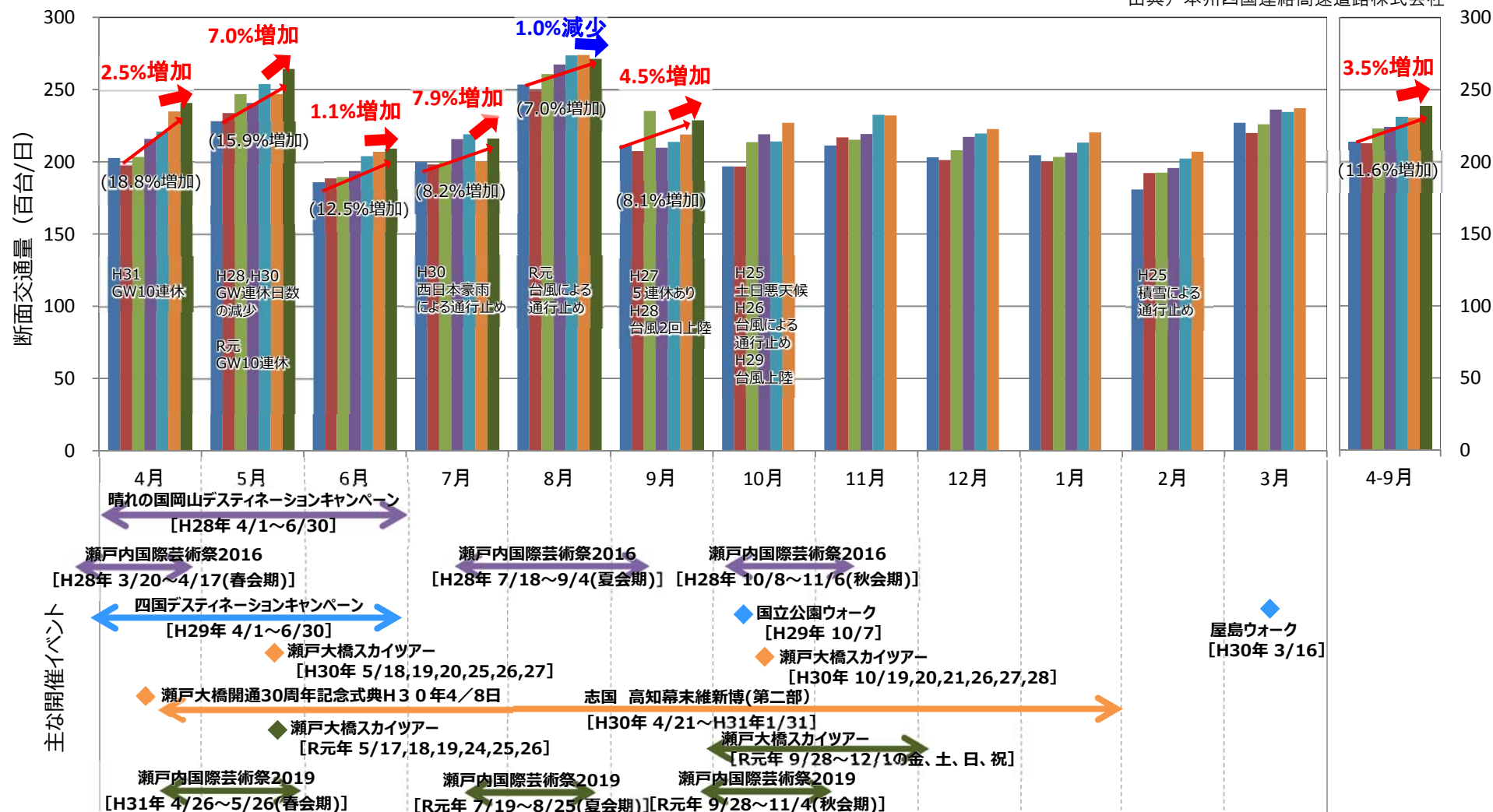
（ ■ H25年度 ⇒ ■ H26年度 ⇒ ■ H27年度 ⇒ ■ H28年度 ⇒
■ H29年度 ⇒ ■ H30年度 ⇒ ■ R元年度 ）】

※増減率は、R元年度/H30年度

（ ）はR元年度/H25年度

グラフの交通量は100台単位で表示しているため、増減率の数値と合わない可能性がある

出典）本州四国連絡高速道路株式会社



平成31年4月以降の交通量の変化（多々羅大橋）

○西瀬戸自動車道（多々羅大橋）の令和元年度の各月の平均断面交通量は前年度に対し、各月とも増加しており、4月～9月の期間では前年同期比7.8%増加している。

【多々羅大橋断面の日平均交通量の変化

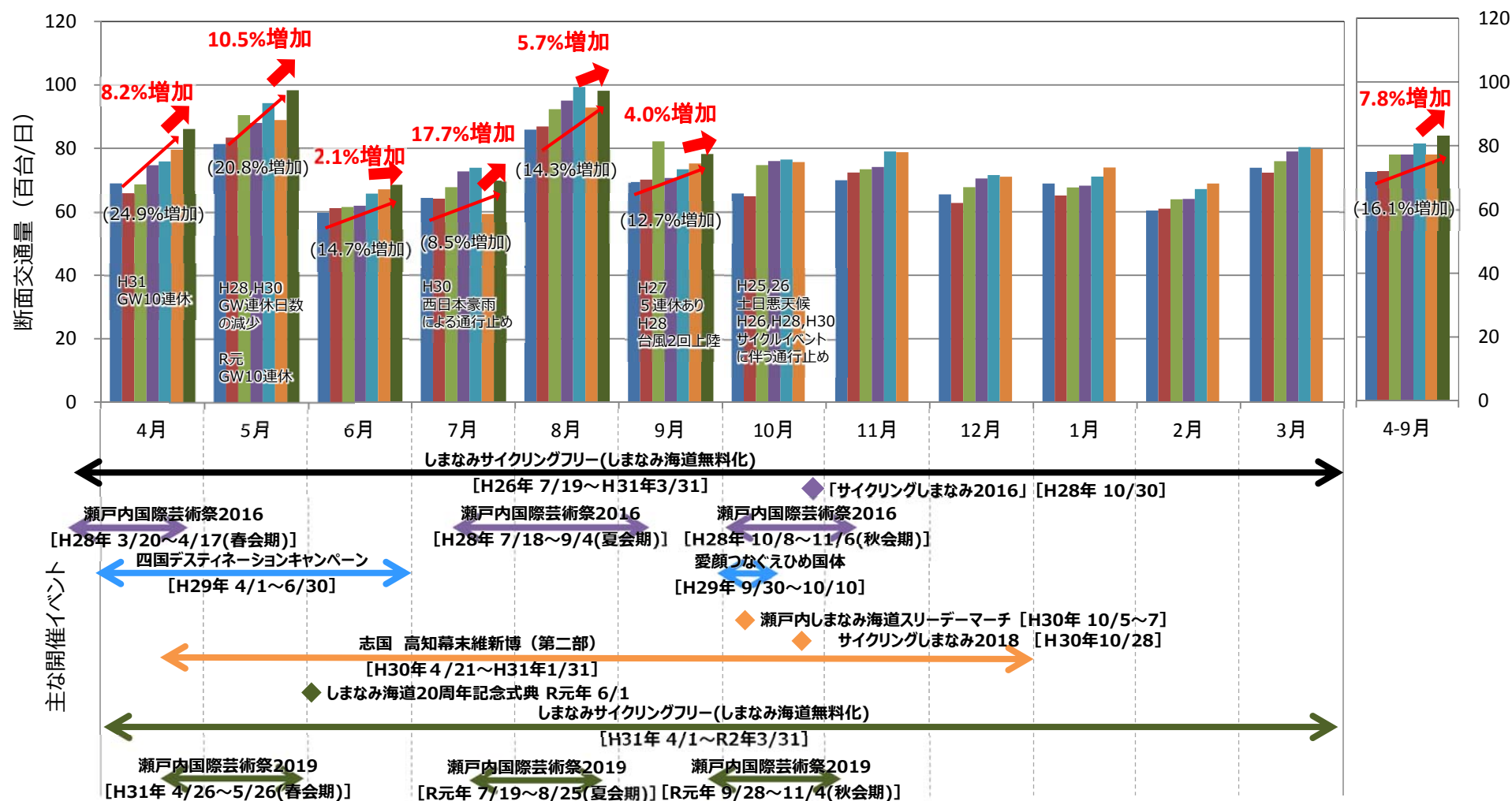
（ ■ H25年度 ⇒ ■ H26年度 ⇒ ■ H27年度 ⇒ ■ H28年度 ⇒
■ H29年度 ⇒ ■ H30年度 ⇒ ■ R元年度 ）】

※増減率は、R元年度/H30年度

（ ）はR元年度/H25年度

グラフの交通量は100台単位で表示しているため、増減率の数値と合わない可能性がある

出典）本州四国連絡高速道路株式会社



◆『山陰・瀬戸内・四国エクスプレスウェイパス』の概要

NEXCO 西日本と兵庫県道路公社は、訪日外国人を対象とした周遊型的高速道路割引企画「山陰・瀬戸内・四国エクスプレスウェイパス」を、**2017年3月25日**から販売している。本商品は、山陰、瀬戸内、四国10 県の自治体等とレンタカー会社各社との連携により実現したもので、山陰、瀬戸内、四国の高速道路で初めてのインバウンド向け割引企画となる。

【ポイント①】 山陰・瀬戸内・四国地域で初！インバウンド向け周遊割引商品！

【ポイント②】 山陰・瀬戸内・四国の3 地域内の高速道路が乗り放題！

(本四高速・阪神高速など他の道路は適用外。)

【ポイント③】 3 日間～10 日間のプラン構成で多様な旅行ニーズに対応！



◆対象者

外国のパスポートをお持ちの方または外国に永住権をお持ちの日本人

◆プラン及び販売価格

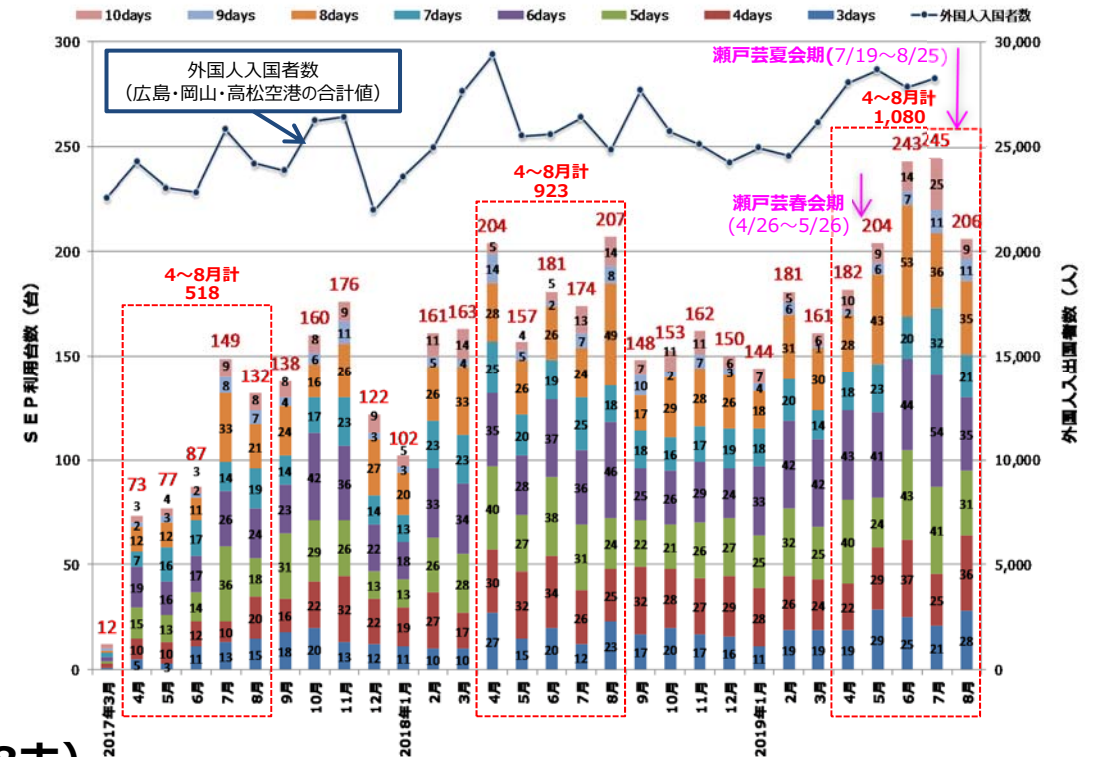
プラン名	利用期間	販売価格 (普通車)
3days	連続する最大3日間	6,000円
4days	連続する最大4日間	7,000円
5days	連続する最大5日間	8,000円
6days	連続する最大6日間	9,000円
7days	連続する最大7日間	10,000円
8days	連続する最大8日間	11,000円
9days	連続する最大9日間	12,000円
10days	連続する最大10日間	13,000円

利用台数とプランの推移

2

- 2017年3月末の発売から2019年8月末の2年5ヶ月間の利用台数は約4,600台であり、長期（4日～8日）プランを利用する車両が多く、利用期間における1台当たりの平均トリップ数は7回である。
- 月毎の利用台数にバラツキはあるものの、『山陰・瀬戸内・四国エクスプレスウェイパス』の訪日外国人に対する広報や口コミによる認知度の高まりにより、増加傾向がうかがえる。

◆プラン毎の利用台数（発売～2019.8末） ◆プラン毎の月別利用台数（発売～2019.8末）



◆プラン毎の利用トリップ数（発売～2019.8末）

プラン名	3days	4days	5days	6days	7days	8days	9days	10days	計
利用台数	480	709	780	932	545	789	165	254	4,654
総トリップ数	2,072	3,840	5,115	6,850	4,422	7,019	1,599	2,683	33,600
1台当たりのトリップ数	4.32	5.42	6.56	7.35	8.11	8.90	9.69	10.56	7.22

・利用台数、利用トリップ数/NEXCO西日本提供エクスプレスウェイパスETCデータより作成
(2017.3.25～2019.8.31)

外国人入国者数/法務省入国管理局統計データより作成
※2019年7月の外国人入国者数は速報値

台風10号接近(8月15日) 計画的通行止めの実施

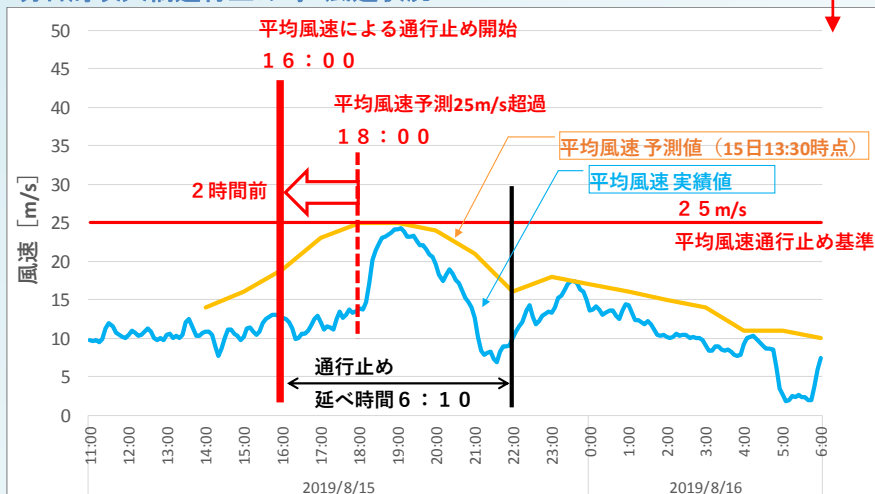
- 台風10号による強風に伴い、神戸淡路鳴門自動車道17時間、瀬戸中央自動車道15時間の通行止めを実施
- 昨年のトラック横転等を踏まえ、**最大風速25m/s以上が予測される2時間前に通行止めを開始**(明石の実測約25m/s)
- 通行止めによる影響を低減するため、**2日前からホームページにより通行止めの可能性を周知し、大きな混乱なし**
- 通行止めの可能性の高い15日を避けて**14日の大型車交通量が増加**(大型車県境断面交通量は昨年比で1,450台/日の増)
- 15日は、**西瀬戸自動車道が代替路としての機能を発揮**(通行止なしの多々羅大橋の大型車断面交通量は昨年比で567台/日の増)

計画的通行止め実施

「通行止め可能性あり」事前周知 ~ 通行止め開始 ~ 通行止め解除の経緯

	8/13 (火)	8/14 (水)	8/15(木)	通行止め 延べ時間
神戸淡路鳴門 自動車道		20:00 通行止め可能性周知 20:00 通行止め可能性周知	0 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16:00 明石海峡大橋 16:00 22:10 通行止め 21:30 通行止め	6:10 16:00
瀬戸中央 自動車道		20:00 通行止め可能性周知	3:30 瀬戸大橋 18:30 通行止め	15:00
西瀬戸 自動車道		20:00 通行止め可能性周知	9:00 通行止め予想なし	なし

明石海峡大橋通行止め時 風速状況

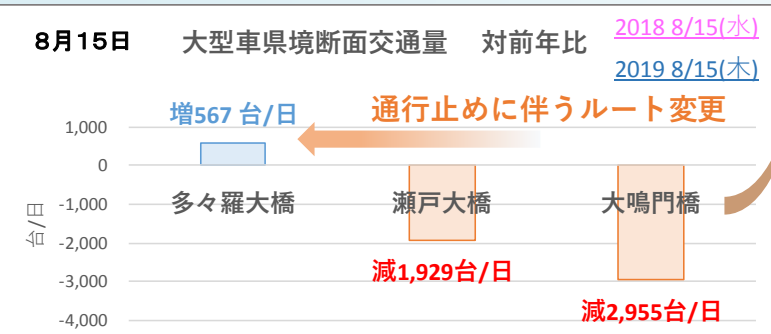


運行前倒しやルート変更により物流への影響が低減

■ 15日を避けて14日の大型車交通量が増加



■ 通行止めの間は西瀬戸自動車道が代替え路としての機能を発揮



本四架橋開通による経済効果をとりとめました ～平成30年の効果額は約2.4兆円、昭和63年からの累計で約41兆円～

本州及び四国の瀬戸内海周辺地域の経済界、国・自治体等の関係者が一体となって様々な分野での交流を促進し、経済、生活、文化の一層の発展、向上を図ることを目的に、平成26年より『環瀬戸内海地域交流促進協議会』を設置し、交流促進策に取り組んでいるところです。

平成30年には神戸淡路鳴門自動車道が全通20周年、瀬戸中央自動車道が開通30周年を迎え、また、本年5月には西瀬戸自動車道（瀬戸内しまなみ海道）が開通20周年を迎えます。
このたび、**本四架橋が日本経済へ及ぼした効果を定量的に把握するため**、本州四国連絡高速道路（株）（神戸市中央区）は、下記のとおり**本四架橋3ルート開通による経済効果を取りまとめましたので、お知らせします。**

今後、環瀬戸内海地域交流促進協議会の各構成団体においても、本四架橋の整備効果を地域の皆様に広くご紹介していく予定です。

○平成30年の1年間の経済効果額は**約2.4兆円**（このうち四国地方の効果額は**約0.9兆円**で四国地方の総生産の**約6%**に相当）

○瀬戸中央自動車道が開通した昭和63年から平成30年までの31年間の経済効果額累計は**約41兆円**

＜ 問い合わせ先 ＞

＜環瀬戸内海地域交流促進協議会に関する問い合わせ＞

国土交通省 四国地方整備局 道路部 道路計画課

電話（087）811-8322（直通）

＜経済効果に関する問い合わせ＞

本州四国連絡高速道路株式会社 広報課（マスコミ専用）

電話（078）291-1023（直通）

＜同時発表先＞

国土交通記者会、国土交通省建設専門紙記者会、近畿建設記者クラブ、大手前記者クラブ、高松サンポート記者クラブ、中国地方建設記者クラブ、合同庁舎記者クラブ（広島）、兵庫県政記者クラブ、岡山県政記者クラブ、広島県政記者クラブ、徳島県政記者クラブ、香川県政記者クラブ、愛媛番町記者クラブ、高知県政記者クラブ、神戸市政記者クラブ、鳴門市政記者クラブ、倉敷市政記者クラブ、坂出市政記者クラブ、尾道市政記者クラブ、今治市政記者クラブ

本州四国連絡道路の概要

明治22年：香川県議会議員、大久保謙之丞が本州と四国との間に橋を建設するという構想を提唱

昭和30年：宇高連絡船「紫雲丸」事故、死者168人を出す

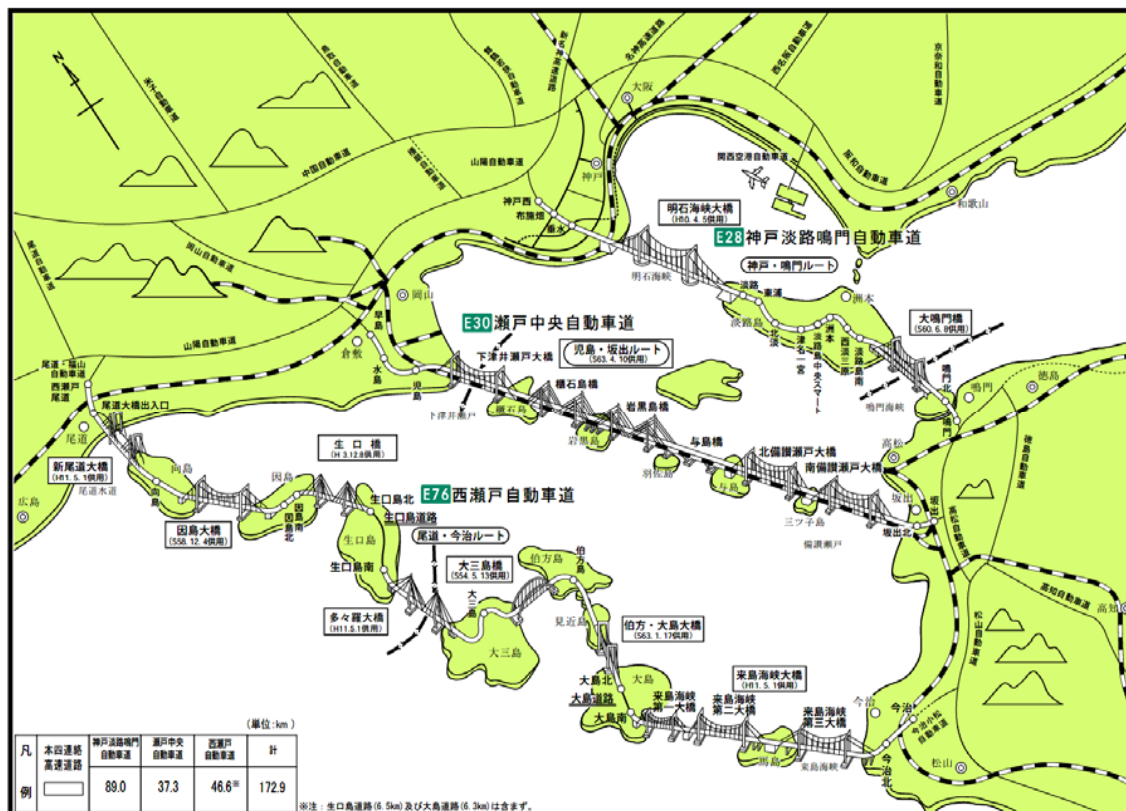
昭和34年：建設省が調査を開始

昭和45年：本州四国連絡橋公団設立

昭和63年 4月：E30 瀬戸中央自動車道（瀬戸大橋）開通

平成10年 4月：E28 神戸淡路鳴門自動車道全線開通（明石海峡大橋供用）

平成11年 5月：E76 西瀬戸自動車道（瀬戸内しまなみ海道）開通



明石海峡大橋のライトアップ



瀬戸大橋開通式

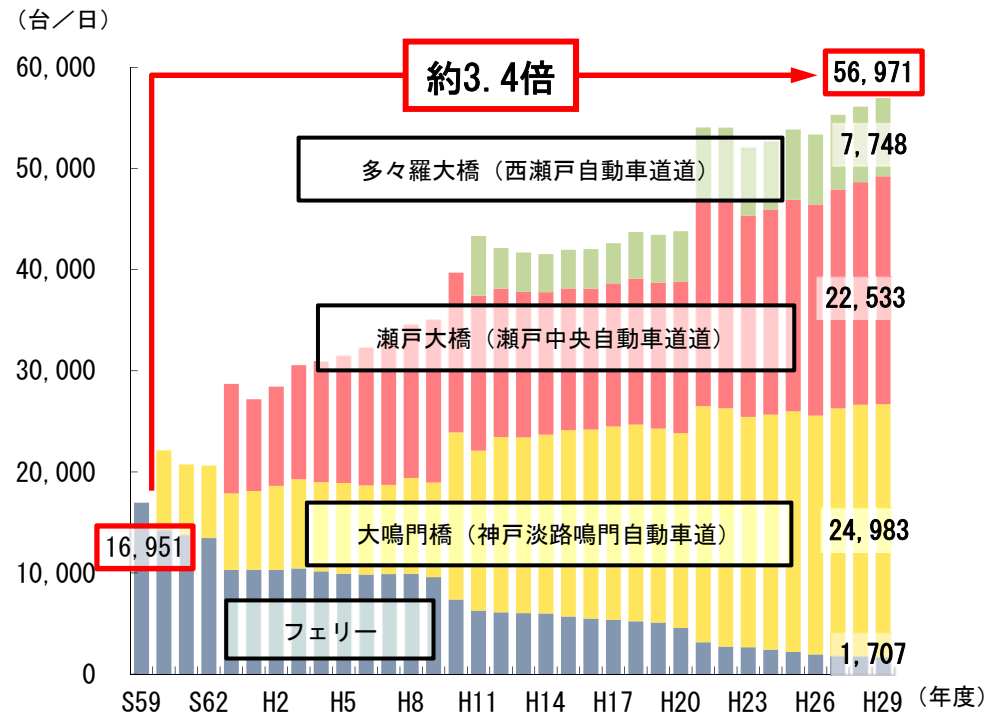


建設中の来島海峡大橋

本四間の自動車交通量・自動車貨物流動量の推移

- 本四架橋の開通により、本州と四国間の自動車交通量が約3.4倍、自動車貨物流動量が約2.5倍と大幅に増加しました。
- これらの増加が日本経済に与えたインパクトを定量的に把握するため、本四架橋開通による経済効果を計測しました。

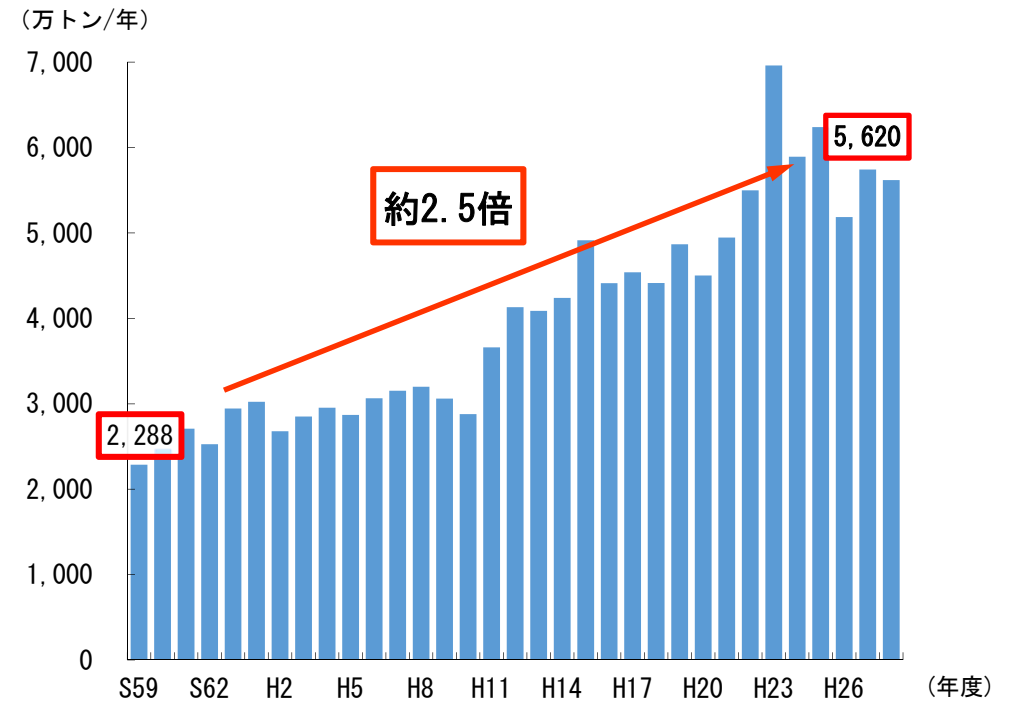
■ 本四間自動車交通量の推移



※全国の自動車交通量は昭和60年度から平成27年度の間で約1.4倍に増加

出典: JB本四高速資料、「四国における運輸の動き」(四国運輸局)
「全国道路・街路交通情勢調査」平均交通量(高速道路+一般道路)(国土交通省)より作成

■ 本四間自動車貨物流動量の推移



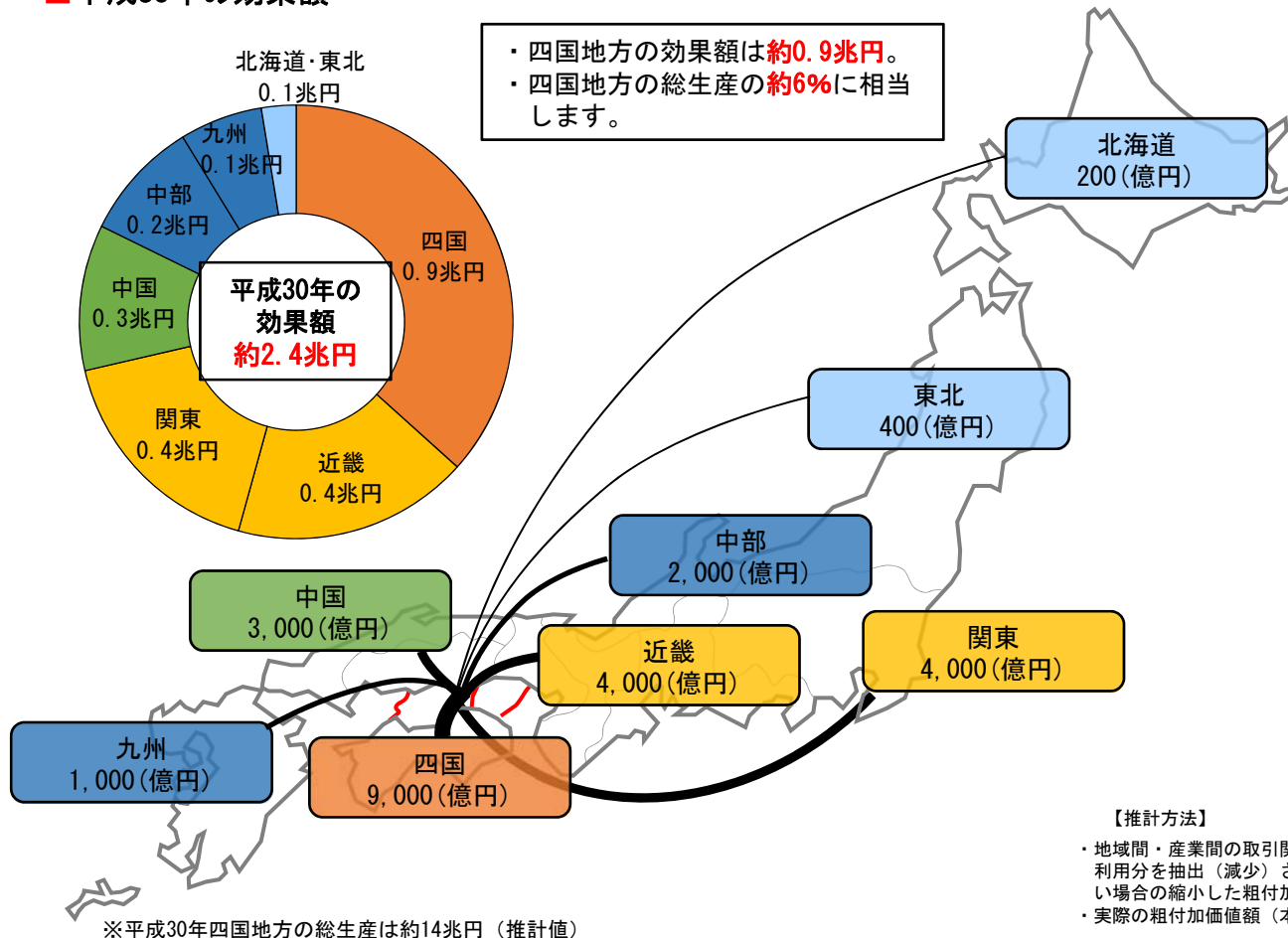
※全国のブロック間の自動車貨物流動量は昭和59年度から平成28年度の間で約1.2倍に増加

注: 地域内の流動は含まない
出典: 「貨物・旅客地域流動調査」(国土交通省)より作成

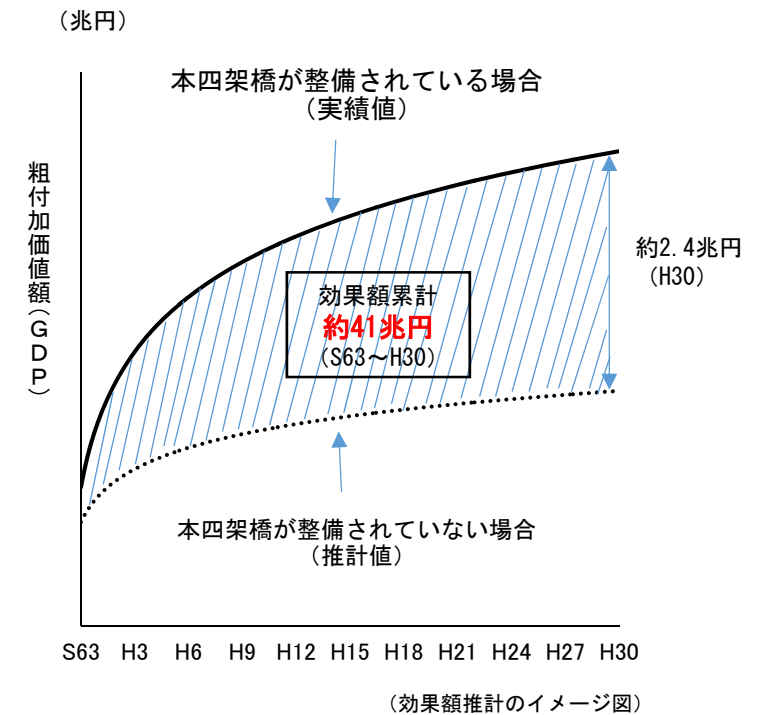
本四架橋開通による経済効果

- 本四架橋の経済効果は全国におよび、平成30年(単年)の効果額は**約2.4兆円**、このうち四国地方の効果額は**約0.9兆円**、四国地方の総生産の**約6%**に相当します。
- また、瀬戸中央自動車道が開通した昭和63年から平成30年までの累計(31年間)で、全国の効果額は**約41兆円**となっています。

■平成30年の効果額



■昭和63年～平成30年までの効果額



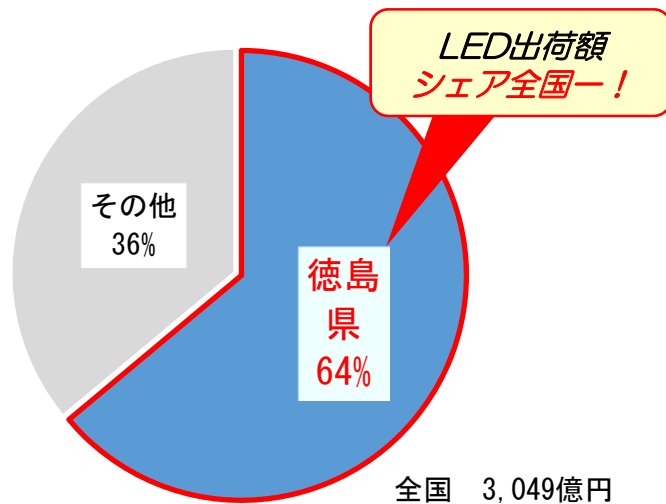
【推計方法】

- ・地域間・産業間の取引関係が整理されている地域間産業連関表をもとに、本州と四国間の取引額から本四架橋利用分を抽出（減少）させ、地域間産業連関表より導き出されるモデル式を用いて本四架橋が整備されていない場合の縮小した粗付加価値額（≒ GDP）を推計。
- ・実際の粗付加価値額（本四架橋が整備されている場合）と比較することにより、本四架橋の効果額を計測。

徳島県のLED産業集積に貢献

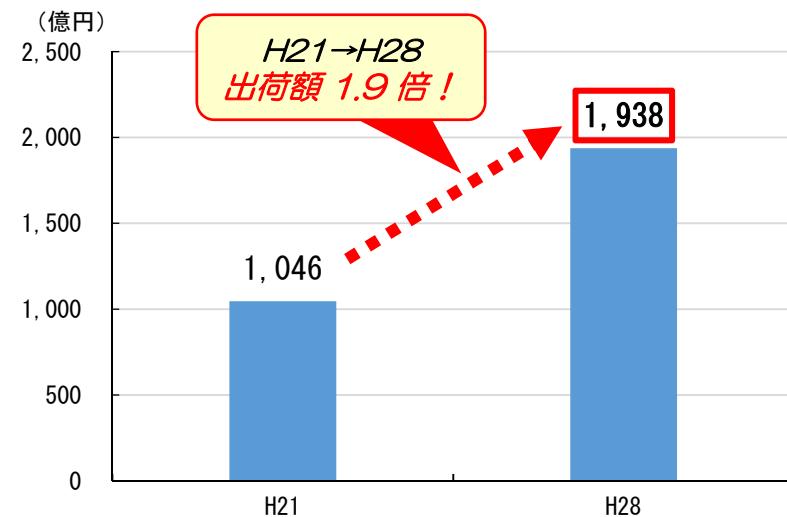
- 徳島県には、高輝度青色LEDを世界で初めて製品化した企業をはじめ、100社以上のLED関連企業が集積しています。
- 「LEDバレイ構想」を推進する徳島県では、LEDに関する研究開発の拠点形成、高度技術者の育成に取り組んできました。
- 徳島県のLED出荷額は年々増加し、平成28年の全国シェアでは約64%（約1,938億円）を占め、日本一です。

■ LED出荷額 全国シェア(平成28年)



出典：「工業統計調査」（経済産業省）より作成

■ 徳島県 LED出荷額の推移



出典：「工業統計調査」（経済産業省）より作成

LED関連製品メーカー 営業担当者の声



事業活動では、少量多頻度の配送・調達を行っています。原材料や製品の調達・納品の多くで神戸淡路鳴門自動車道を利用しており、特に関西方面に向けては、リードタイムの短縮化と物流の安定に貢献しているといえます。

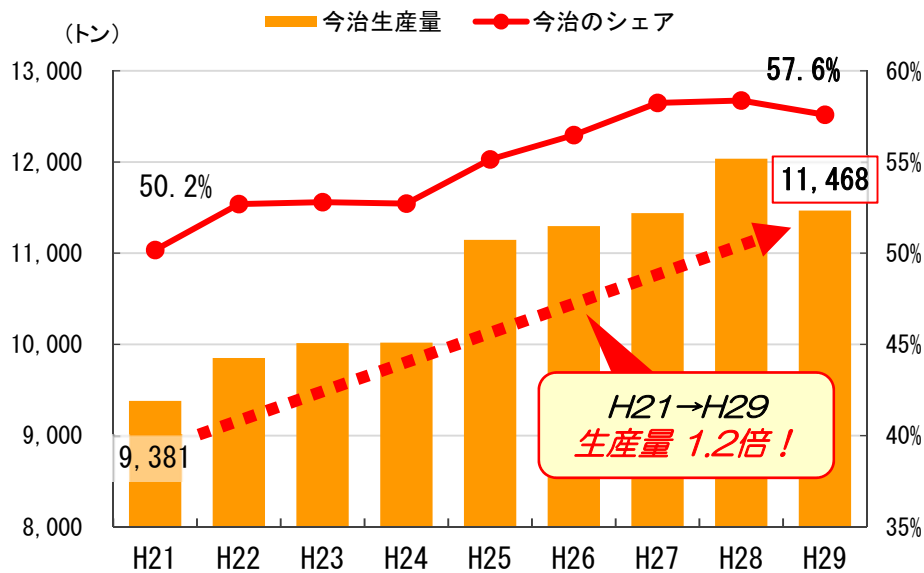


LED製品事例
(神戸淡路鳴門自動車道 広域情報版)

高品質な「今治タオル」のシェア拡大

- 今治は、タオルづくりの「さらし」や「染め」に適した良質の水に恵まれており、タオル生産量日本一です。
- 今治市と生産者によるブランド戦略などで、「安心・安全・高品質」な製品として知名度を上げてきました。
- その結果、今治のタオル生産量は増加しており、平成29年の国産タオルに占めるシェアは約58%を占めています。

■ 今治のタオル生産量と国内シェア



出典：今治タオル工業組合資料より作成

■ 原料綿糸とタオル製品の輸送ルート例



出典：企業へのヒアリングをもとに作成

タオル製造関係者の声



タオルをきっかけに今治を訪れる方もいっしょに、観光面にもプラスになっていると思います。

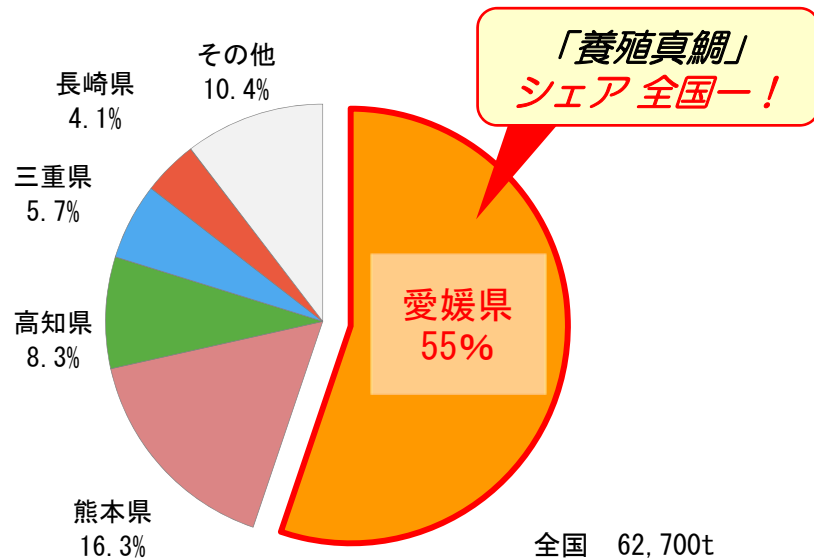


今治タオル製品

愛媛県産「真鯛」が高い鮮度で大都市の市場へ出荷

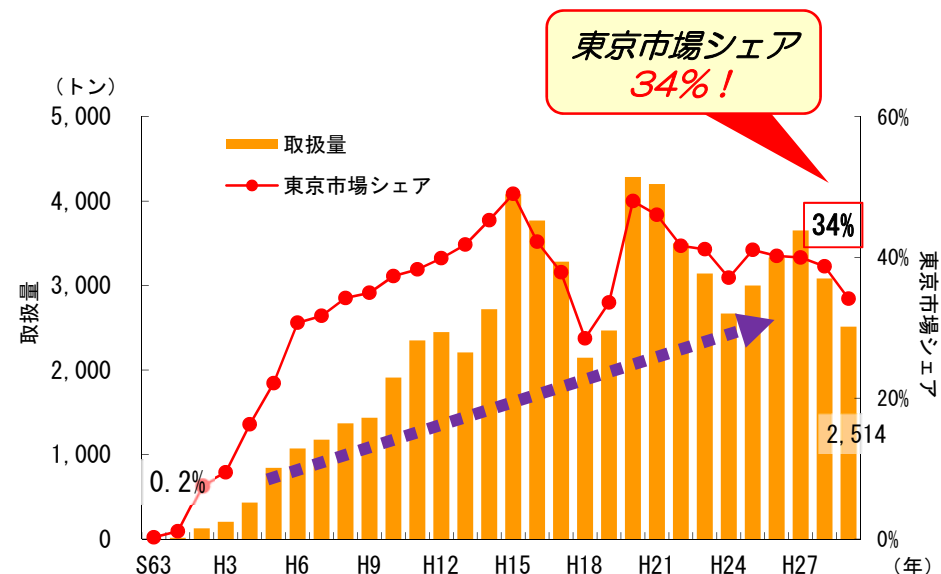
- 瀬戸内海や宇和海の豊かな海に恵まれた愛媛県では養殖業が活発で、愛媛県産「養殖真鯛」は生産量全国一です。
- 高速道路ネットワークの拡充によって鮮度の高い真鯛がより遠方へ出荷できるようになったことから、東京・大阪市場での取扱量を順調に伸ばしてきました。
- 新たな養殖魚の研究や、愛媛県特産の柑橘を飼料に用いた養殖魚の生産など、需要拡大に向けた取り組みも進んでいます。

■「養殖真鯛」の全国シェア（平成29年）



出典：「漁業・養殖業生産統計」（農林水産省）より作成

■東京都中央卸売市場における愛媛県産「真鯛」の取扱量とシェア



出典：「東京都中央卸売市場年報（注）」より作成
注：「養殖まだい」と「天然まだい」の合計値。



鮮魚販売会社 担当者の声

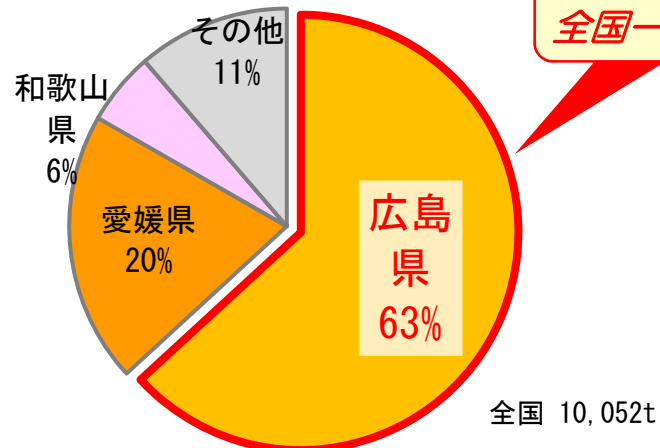
関東方面の市場に輸送する場合、架橋前は、競り前々日の夜に荷積みをする必要がありました。架橋によって5～6時間短縮されたため、競り前日の朝に荷積みし、出荷すればよくなりました。



広島県産「レモン」6次産業化で地域活性化

- 広島県尾道市の生口島をはじめとするしまなみ海道の島しょ部は、温暖で強風が少なく「レモン」の栽培に適した環境です。
- 防カビ剤を使用せず皮まで食べられる「安全・新鮮」な品質や、貯蔵・包装技術の開発による一年中の出荷により、収穫量は増加傾向で、全国一となっています。
- 近年では、「レモン」を加工した商品が島内外各地で販売されるなど、6次産業化による地域活性化にもつながっています。

■ 国産「レモン」の収穫量シェア(平成27年)



広島県産「レモン」は
全国一の収穫量！

出典：「特産果樹生産動態等調査」（農林水産省）より作成



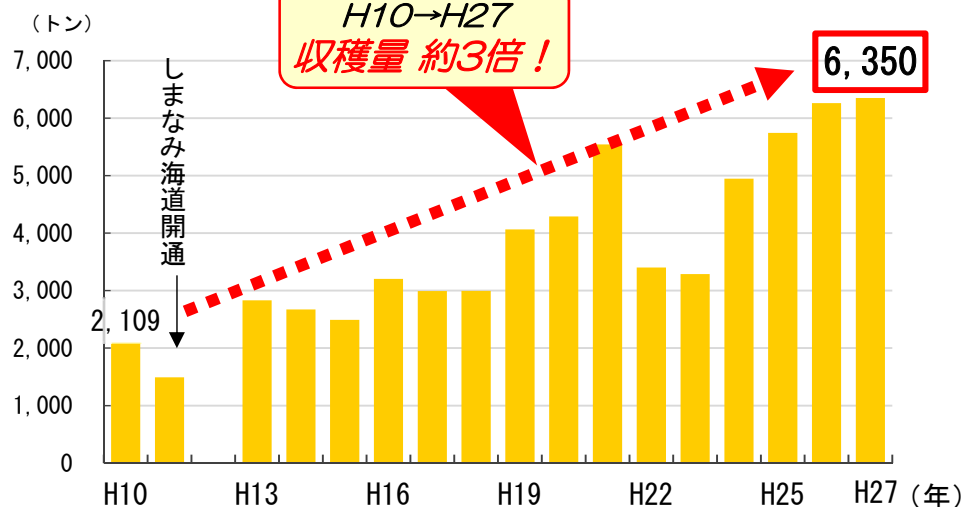
お菓子メーカー（生口島）の声

生口島で収穫されたレモンのお菓子を島内で生産・加工し、各地に販売しています。

「橋」がなければ、集荷時間制約やコストが問題となり、島内で生産すること自体が難しいです。

近年では、販売量が増加、好調な売上を背景に約50人の雇用確保につながりました。

■ 広島県産「レモン」収穫量の推移



※H12はデータなし 出典：「特産果樹生産動態等調査」（農林水産省）より作成

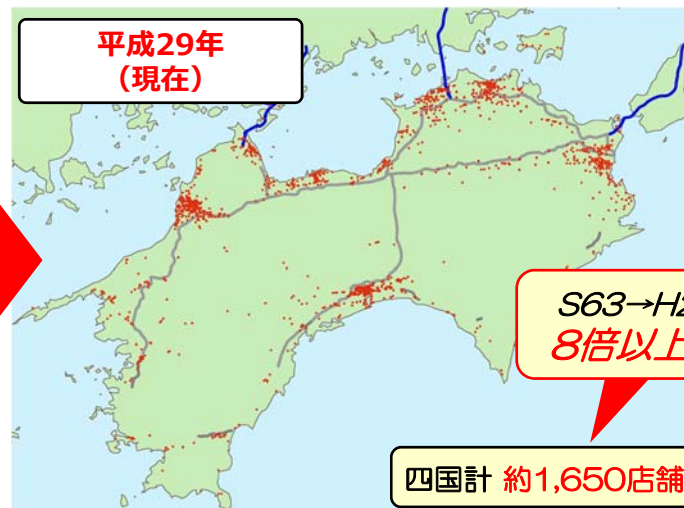


スタッフによる作業風景

高速道路ネットワークの拡充に伴い、四国に「コンビニ」が展開

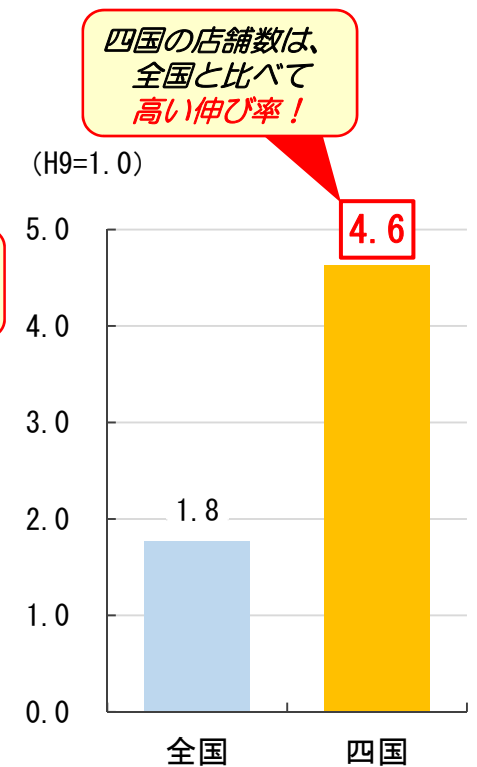
- 昭和63年当時、四国内の「コンビニ」は各県庁所在都市を中心に开店されているのみでした。
- 本四高速道路をはじめとした高速道路ネットワークの拡充に伴い、流通形態が確立されたことから出店が進んできました。
- 四国の「コンビニ」店舗数は、瀬戸大橋開通から約30年で、8倍以上に増加しています。

■ 四国 コンビニ出店状況の変化



出典：各年次の電話帳をもとに作成
注：電話帳における分類が「コンビニエンスストア」であるものを抽出

■ コンビニ店舗数 伸び率の比較 (H9→H29)

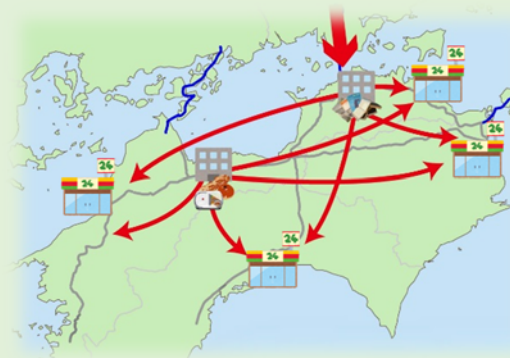


出典：「商業動態統計」(経済産業省) より作成



大手コンビニ 四国地区マネジャーの声

「橋」がなければ、本州側から商品を届けることができず出店が困難でした。お弁当や惣菜類等は四国内の工場で製造しています。雑貨やドリンク等の商品は、本州から瀬戸大橋経由で坂出市の物流拠点に一度集約し、四国全域に配送しています。物流拠点については、本州からアクセスが容易な坂出市に設けています。

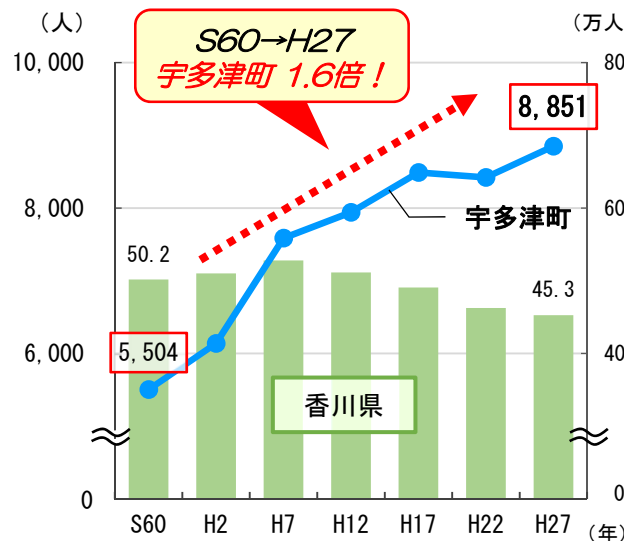


坂出・坂出北IC、早島IC近辺に物流拠点が形成、就業者数が増加

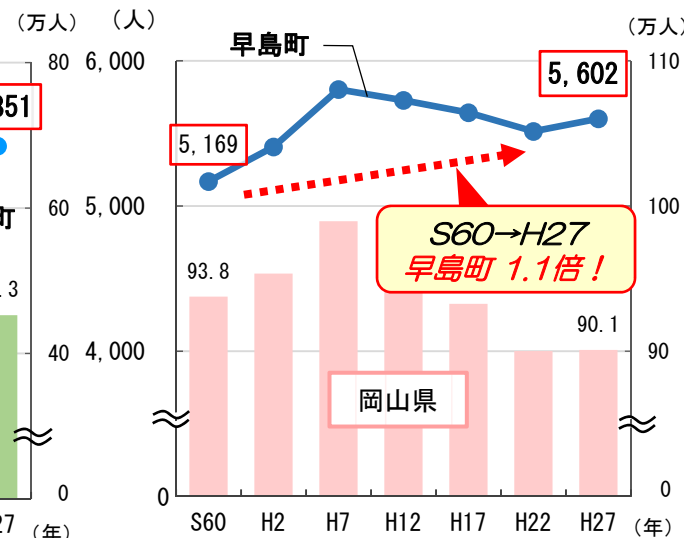
- 瀬戸大橋の開通や、高速道路ネットワークの拡充により、香川県・岡山県は物流のクロスポイントとなりました。
- 坂出・坂出北IC近辺の香川県坂出市・宇多津町や、早島ICのある岡山県早島町では、各自治体による立地促進対策等により、運輸業等の物流関連施設の立地が相次いでいます。
- 就業者数は香川県・岡山県全体では減少傾向にあるのに対して、宇多津町・早島町では増加しています。

■就業者数の推移

◆香川県宇多津町

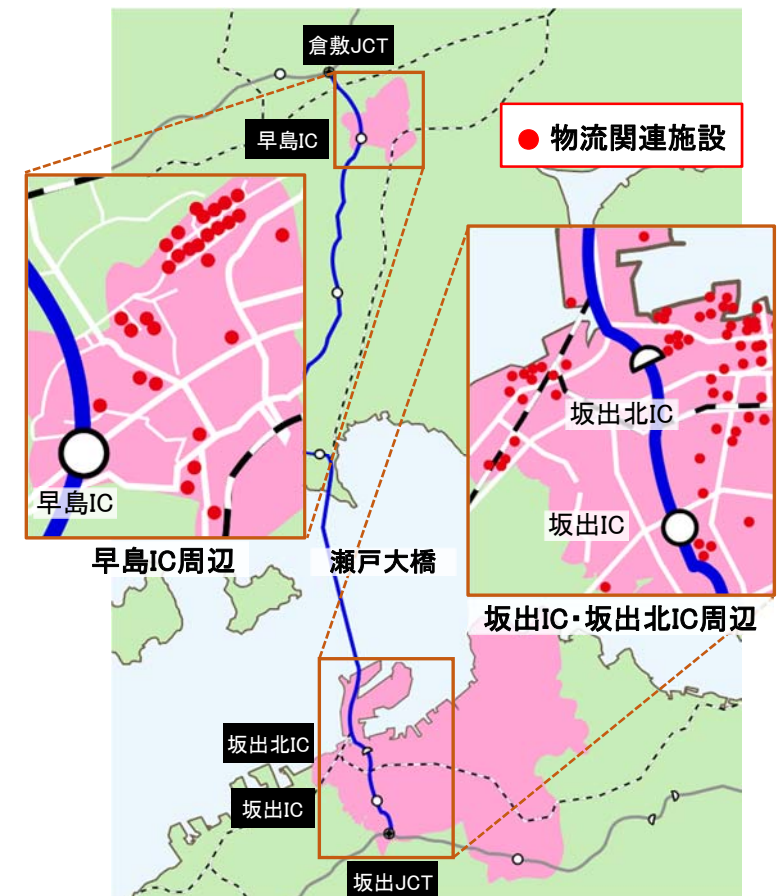


◆岡山県早島町



注：15歳以上就業者数 出典：「国勢調査」（総務省統計局）より作成

■瀬戸大橋近辺の物流関連施設立地状況



出典：RESAS（地域経済分析システム）ほかをもとに作成



大手スーパーマーケット担当役員の声

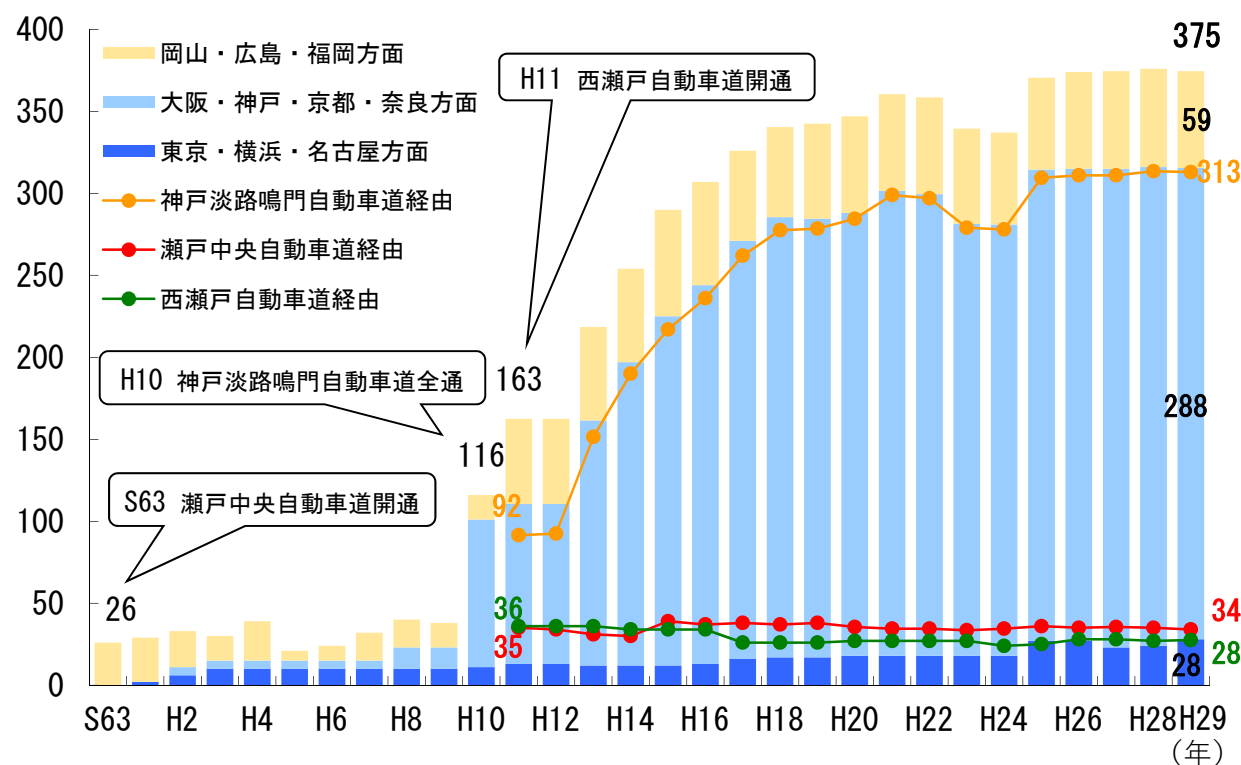
中国・四国地方の瀬戸内海沿岸部の都市周辺へ集中した店舗展開を行っています。そのクロスポイントとなる早島町に物流拠点を集約することで、物流トータルシステムの効率化がはかれています。

本州・四国間の高速バス便数の推移

- 本州・四国間を結ぶ高速バスは、平成10年の神戸淡路鳴門自動車道全通以降、京阪神と四国を結ぶ路線を中心に大幅に増加し、平成29年では1日往復375便となっています。
- 神戸淡路鳴門自動車道を経由する便は、1日往復313便で、全体の約83%を占めています。

■ 本州・四国間の高速バス便数の推移

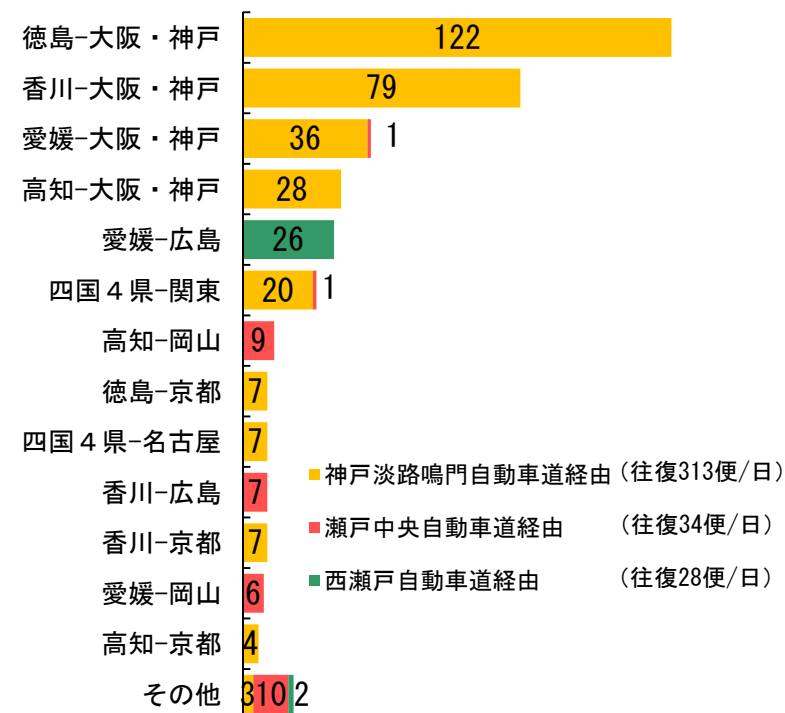
(往復便数/日)



出典:「四国運輸局業務要覧」(四国運輸局)、運行会社へのヒアリングより作成

■ 本州・四国間の高速バス 発着地別便数 (平成29年)

(往復便数/日)



注1: 平成29年9月時点

注2: 「その他」…8路線・往復15便/日

出典:「四国運輸局業務要覧」(四国運輸局)、運行会社へのヒアリングより作成

「サイクリストの聖地」しまなみ海道

- しまなみ海道は、アメリカCNNテレビで世界7大サイクリングルートの一つに選定されるなど海外からも注目されています。
- レンタサイクル貸出台数は、10年前の約4倍に増加しており、外国人の利用も多くなっています。

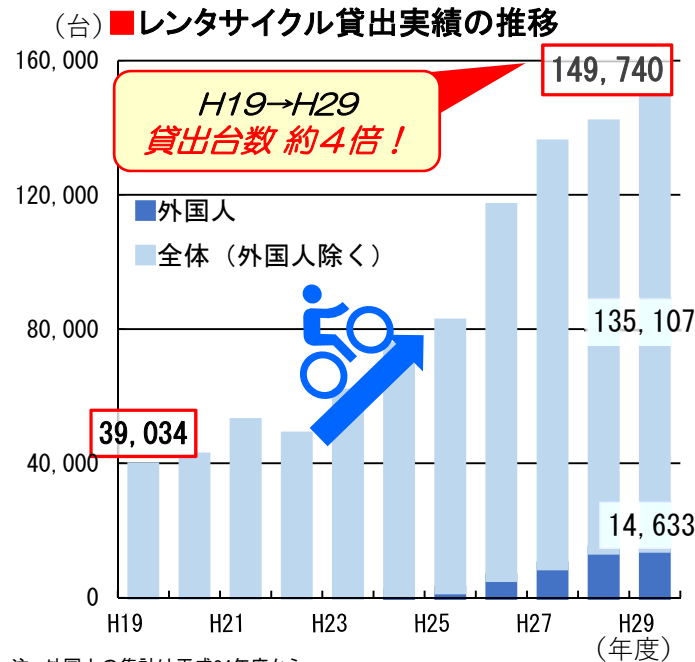
■しまなみ海道 サイクリングルート (レンタサイクルターミナル位置図)

島しょ部を結ぶしまなみ海道が
サイクリングルート形成に寄与



● レンタサイクルターミナル
(13箇所)

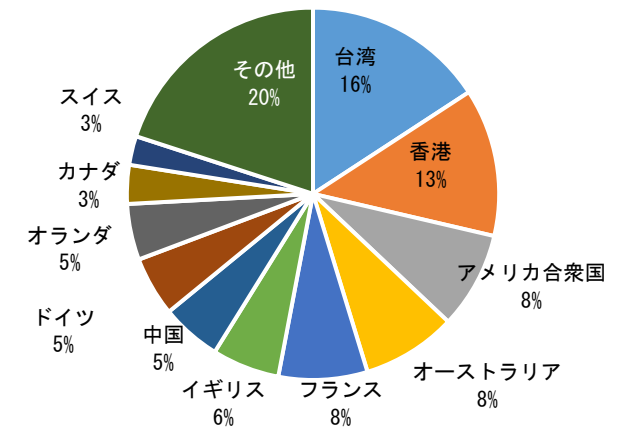
※平成29年3月現在



注: 外国人の集計は平成24年度から
出典: 広島県尾道市、愛媛県今治市提供データより作成

■外国人のレンタサイクル利用状況 (平成29年度)

総数 14,633台



しまなみ海道の
サイクリングは
外国人にも人気!

外国人観光客の声

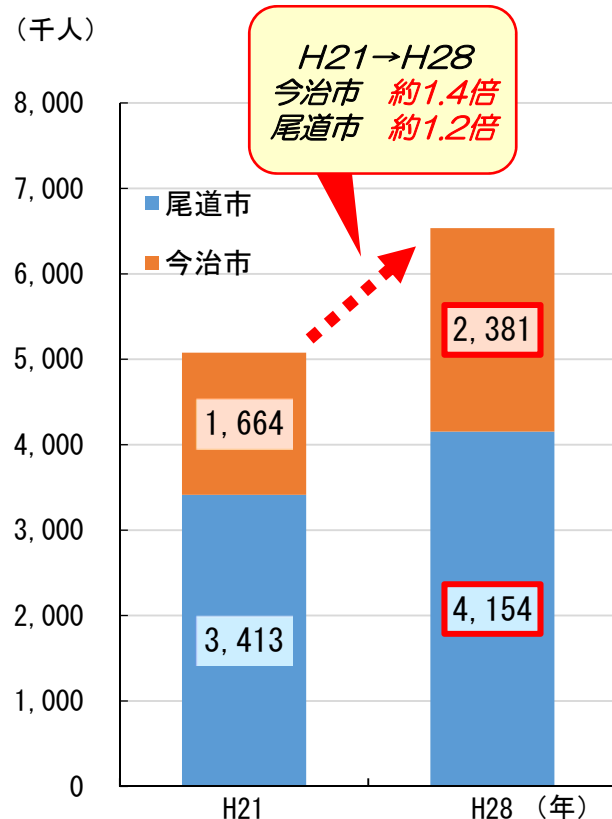


SNSで素晴らしいサイクリングロードがあることを知りました。
しまなみ海道から見た景色や、しまなみ海道を眺めた景色が素晴らしいです。
現地の人々はとてもフレンドリーでした。

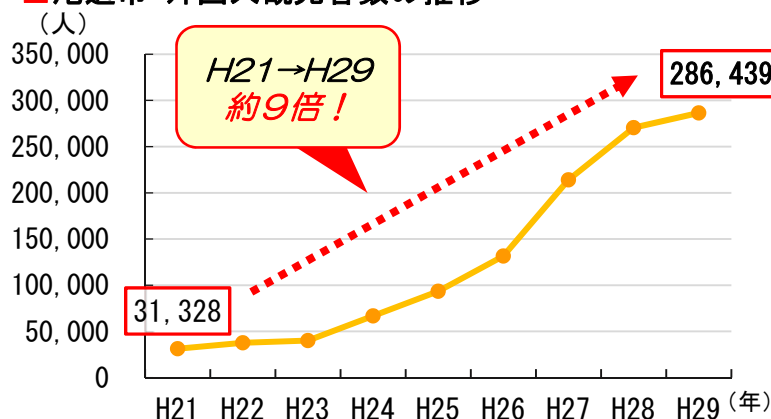
しまなみ海道、国内外から観光客が増加

- 米紙ニューヨーク・タイムズの「2019年に行くべき52ヶ所」の7位に「瀬戸内の島々」が選出されました。
- しまなみ海道沿線の尾道市・今治市の県外観光客は年々増加傾向にあり、外国人観光客は大幅に増加しています。
- 平成29年度の尾道市の観光消費額は約272億円、平成25年度に比べ約1.1倍、約24億円の増加となっています。

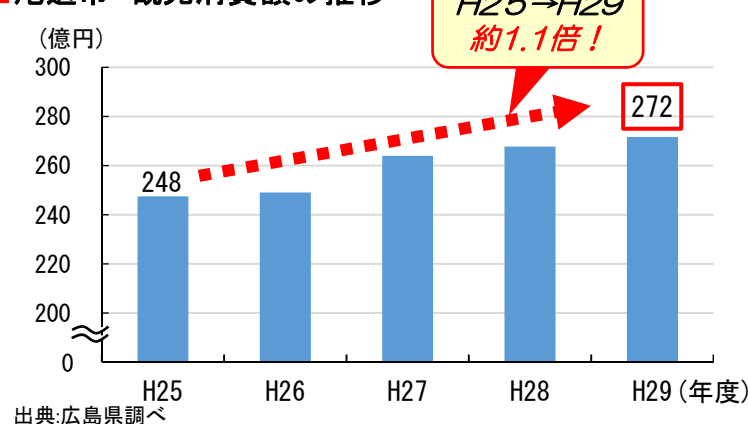
■尾道市・今治市 県外観光客数の推移



■尾道市 外国人観光客数の推移



■尾道市 観光消費額の推移



瀬戸内の島々としまなみ海道

血液製剤の安定的な供給への貢献

- 血液製剤の検査・製造は、各県で行っていたため、必要な血液が不足することがありました。
- 本州・四国間に3本の橋があり確実に搬送できることから、平成24年4月以降、中国・四国地方の献血血液を中四国ブロック血液センター（広島県）に集約して検査・製造し、各県の血液センターに供給する運営体制に移行しました。
- 広島と四国間は、主に血液輸送車により搬送しており、瀬戸大橋またはしまなみ海道を經由する便が1日10回あります。

■ 中四国ブロック血液センター⇄四国間の搬送ルート



中四国ブロック血液センター（広島県）



血液輸送車



日本赤十字社 中四国ブロック 血液センター の声

以前は、各県ごとに献血された血液を集め、その中でやりくりしてきましたが、必要な血液が集まらない日もあり、医療機関からの求めに応じられなくなりました。

今では、各県で必要とされる血液量に応じて必要な分だけ安心して迅速に送れるようになりました。

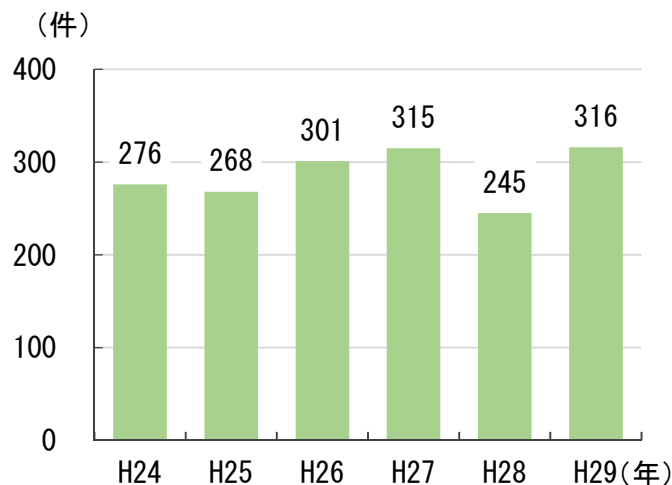
四国に3本の橋が架かったことで、代替のルートがある安心感からこの体制に移行できました。

出典：日本赤十字社中四国ブロック血液センター提供資料をもとに作成

しまなみ海道島しょ部における救急搬送

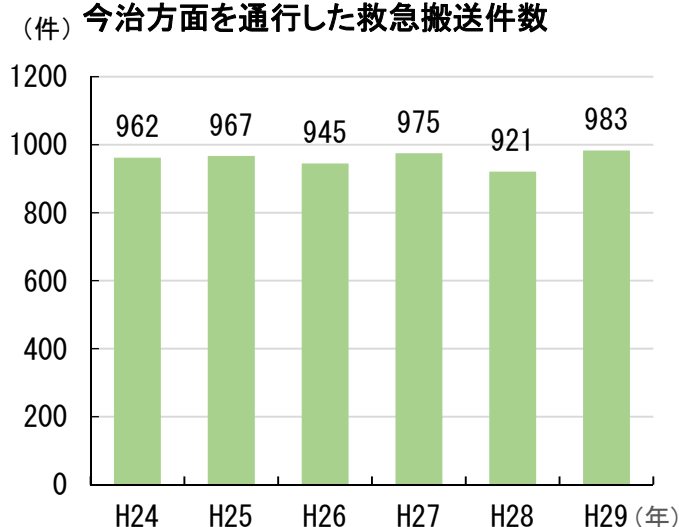
- しまなみ海道を通行した救急搬送は、尾道市の生口島から年間250～300件、今治市の島しょ部（大三島、伯方島、大島）から年間900～1,000件程度発生しています。
- 以前は市営フェリーや小型船を用意しての救急搬送でしたが、しまなみ海道の開通によって終日・即時の搬送が可能となり、住民の「安心」に貢献しています。

■ 生口島から尾道方面を通行した救急搬送件数

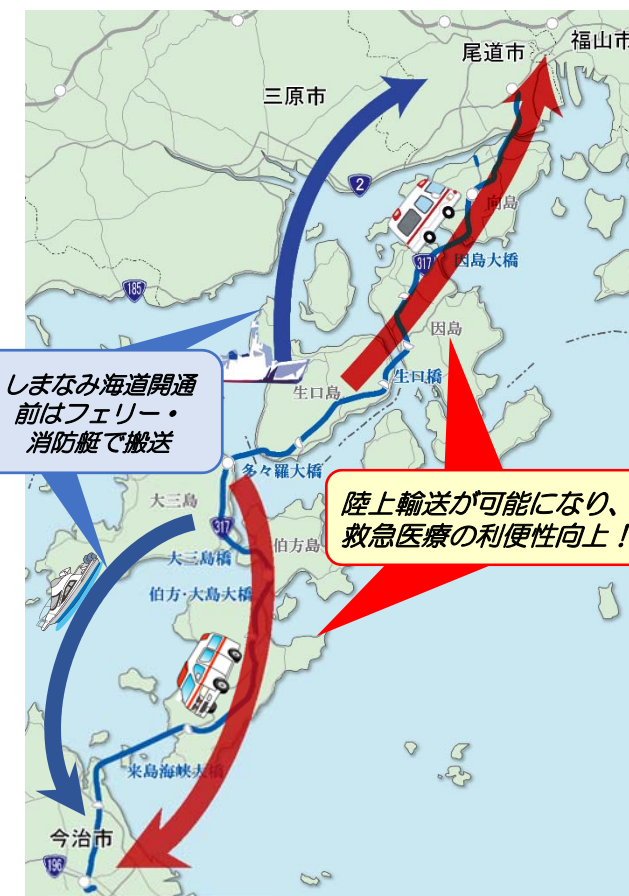


出典：尾道市消防局提供データより作成

■ 今治島しょ部(大三島、伯方島、大島)から今治方面を通行した救急搬送件数



出典：今治市消防本部提供データより作成



消防関係者の声

伯方島の伯方地区では、消防艇で約1時間かかっていた搬送時間が、救急車で約20分になりました。

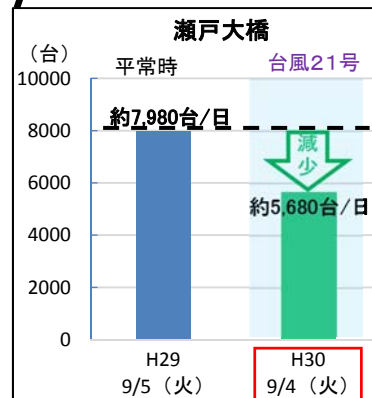
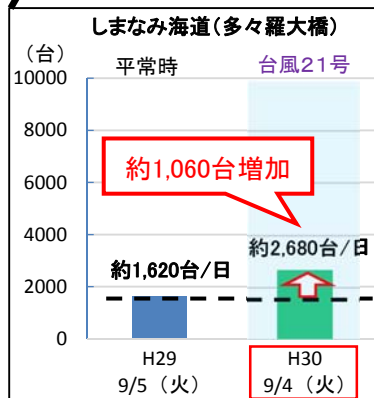
また、消防艇では2度傷病者を乗せ換えていた移動に伴う負担も軽減しました。

件数も400件程度だったのが、2倍以上に増加しました。

本四3ルートによる代替路としての機能

- 平成30年は豪雨や台風が多発して各種交通機関の通行止め・運休が発生しました。
- 平成30年9月の台風21号により、神戸淡路鳴門自動車道と瀬戸大橋が通行止めとなりましたが、しまなみ海道が迂回路として機能し、交通量が約65%増加しました。

■台風21号による通行止め時の交通量の増減



※ 対象は中型車以上
出典: JTB本四高速資料

■台風21号による通行止め時間

路線	9月4日(火)
神戸淡路鳴門自動車道	10:00 ← 約9時間 → 18:40
瀬戸大橋	9:45 ← 約7時間 → 17:00
しまなみ海道	通行止め無し



物流関係者の声

台風などで、通常利用するルートが通行止めの際は、通行可能な他のルートへ迂回しています。

本州・四国間は3本ルートがあるので、万が一通常利用するルートが通行止めとなっても、到着日時にに関して荷主の要望に応じることが出来ます。

本四架橋整備効果のパネル展示等

パネル展示(JR高松駅 4/16~4/22)

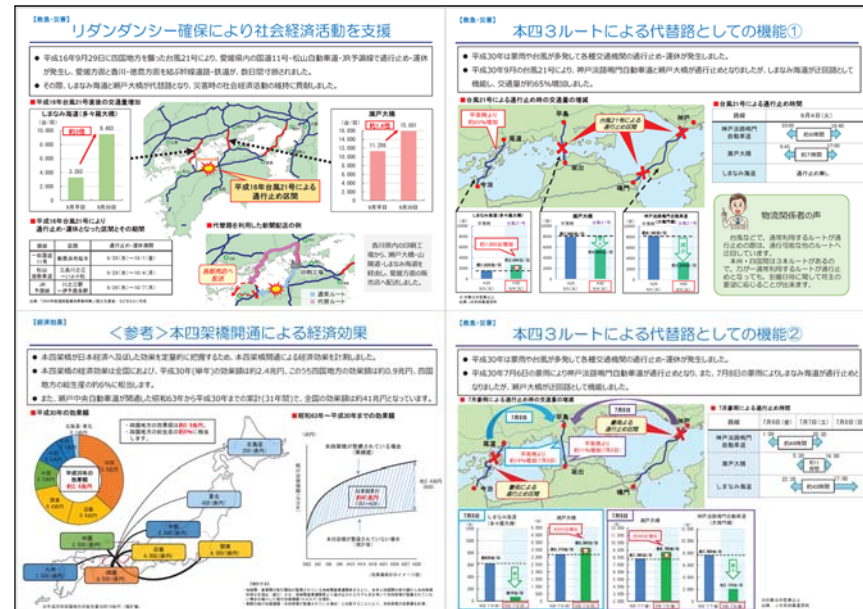


整備局長講演で紹介 4/20

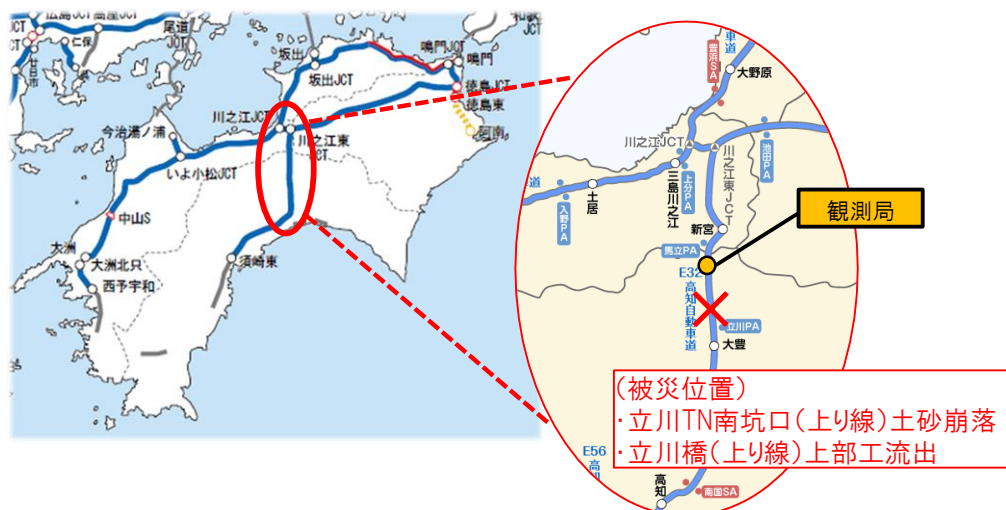
国の夢プロジェクト シンポジウム



パネル展示〔徳島市役所(1階国際親善コーナー)9/2~9/6〕
※徳島県内の沿岸自治体で8月下旬から順次実施中



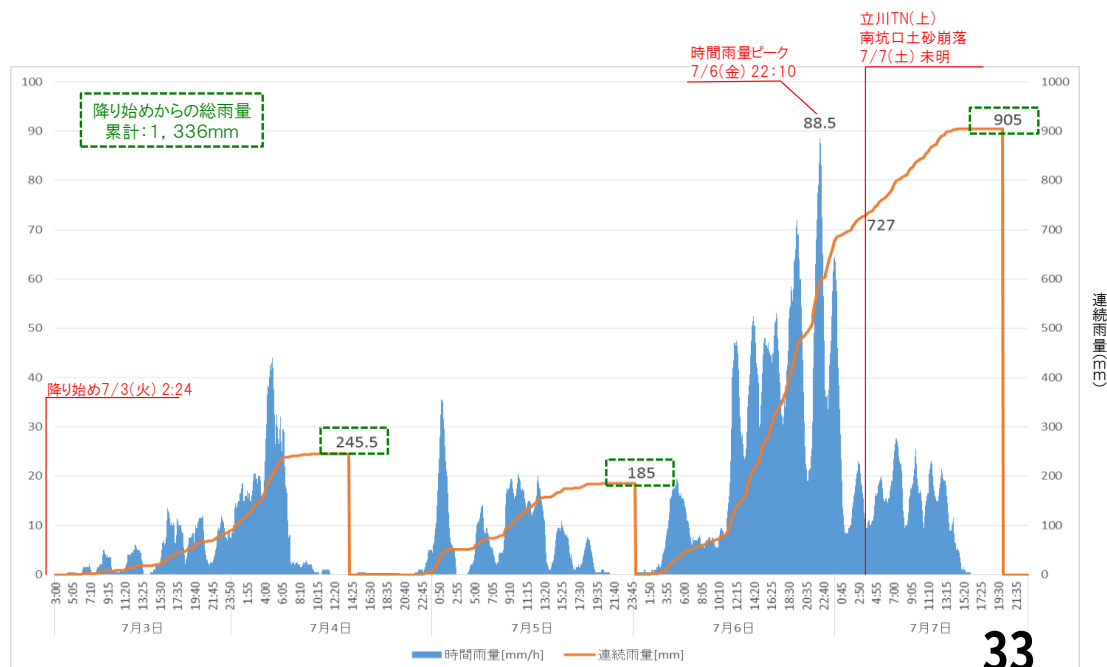
高知自動車道 立川橋の復旧について



【土砂崩落状況】平成30年7月7日撮影

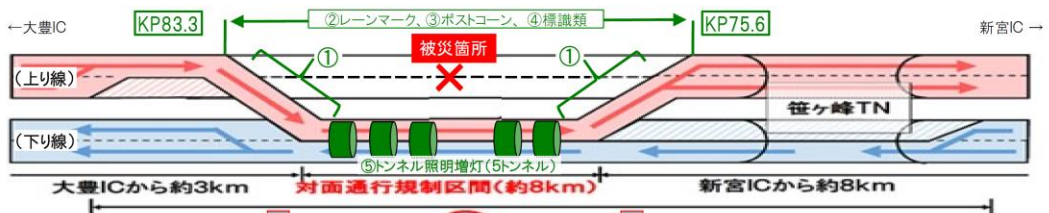


高知自動車道(新宮IC～大豊IC) 降雨量の推移(笹ヶ峰南観測局 75.81KP)



高知自動車道 立川橋の復旧について

通行止めから7日後の2018年7月13日
11時より対面通行にて一般開放



(新宮IC～大豊IC 区間交通量(台/日))

上り線	下り線	断面
5,970	6,650	12,620

※交通量集計期間：H30.7.14(土)～H30.7.29(日)

◆ 大豊IC側 擦り付け部



◆ 新宮IC側 擦り付け部



対面通行状況

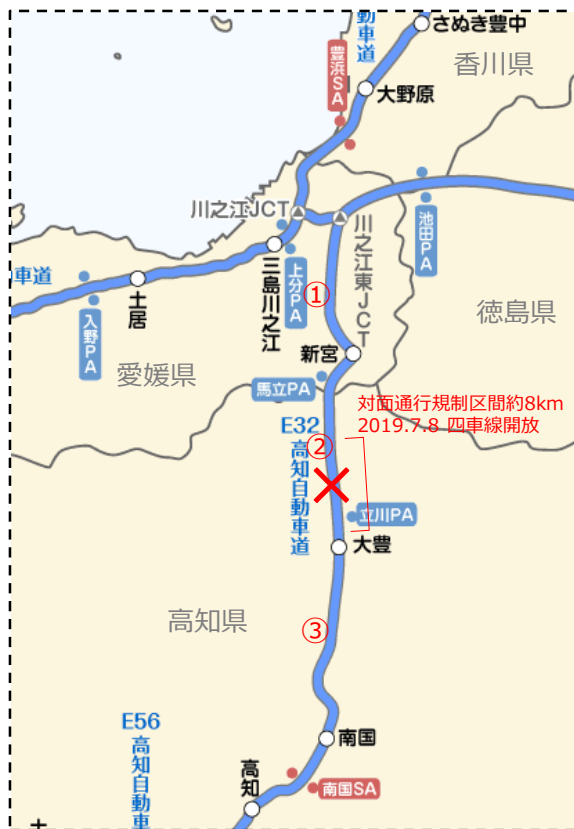
2019年7月8日
午前6時 4車線運用開始



復旧状況

高知自動車道 立川橋の復旧について

■位置図



■交通量と渋滞状況

日平均交通量 (最大値)	区 間	平成29年8月	平成30年8月	令和元年8月
	① 川之江東 J 新 宮	18,100 (35,000)	16,700 (30,900)	17,600 (35,300)
	② 新 宮 大 豊	17,600 (34,100)	16,300 (30,000)	17,200 (34,100)
	③ 大 豊 南 国	19,200 (35,500)	18,300 (32,000)	18,600 (35,700)
渋滞発生状況 (5km以上の渋滞)		なし	5回 最大渋滞長 12.6km	なし

- ・ 災害の影響で対面通行規制を実施していた昨年は、交通量がやや減少傾向
お盆の繁忙期においては、5 kmを超える渋滞が5回発生
- ・ 4車線での通行を確保した今年8月は、概ね平年並みの交通量に回復し、渋滞も解消

平成30年度開通路線の効果について(E11高松自動車道の4車線化)

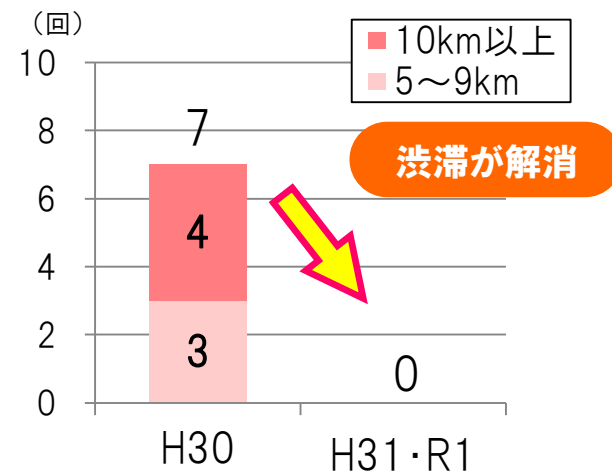
- 高松自動車道鳴門IC～高松市境間（延長約51.8km）について、平成31年3月8日に4車線化が完成。
○ 交通混雑期において渋滞が発生していたが、4車線化完成後のGW及びお盆期間においては、交通集中による5km以上の渋滞が解消。



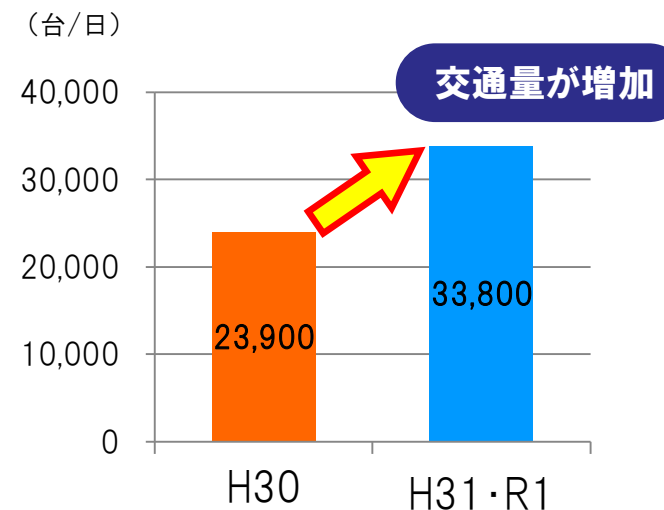
■大坂トンネル付近の交通状況



■GW期間中の渋滞回数（事業区間合計）



■GW期間中の交通量（事業区間平均）



※H30 GW期間：4/27～5/7
H31・R1 GW期間：4/26～5/6